

CSRレポート 2012

Corporate Social Responsibility Report 2012



いい匂いのする
コラボレーション パートナー

コベルコシステム株式会社
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています。

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水はし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。

コベルコシステム株式会社
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION



■ 菊水山から神戸市街・ポートアイランド・神戸空港を望む (写真提供: NPO法人 六甲山の自然を学ぼう会)



■ 植樹会の植樹地(有馬温泉癒しの森)に咲くヤマアジサイ(左)とシチダンカ(右)

コベルコシステム CSRレポート 2012

はじめに

コベルコシステムは、CSR活動を経営を支える大切な取り組みとして位置づけています。持続的な発展を実現するためには、常にCSRを意識し、日々の企業活動で実践しなければなりません。CSR活動の実践と継続こそが、社会からの信頼をいただく最良の道筋と考えています。本CSRレポートを通じて、ステークホルダーの皆様へ、コベルコシステムのCSR活動への想いを聞いていただき、「いい匂いのする「コラボレーション・パートナー」」コベルコシステムをより深く理解していただくことを願っています。

本レポートは、コベルコシステムのCSRに関する取り組みについて、ステークホルダーの皆様によりわかりやすく報告することを目指して編集しています。2010年の初版のレポートでは、従来から進めてきた個々の社会的責任を果たすための活動をCSRとして体系化し、その取り組みを紹介しました。また、2011年版では、ステークホルダーの皆様に対して、コベルコシステムが考えているマテリアリティ(大切に想う気持ち)を整理し、そのメッセージを軸に取り組みを報告しました。2012年版でも、引き続き、この2011年版の考え方を踏襲し、報告しています。

報告対象期間:2011年1月1日から12月31日の一か年の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯や、CSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

Contents

表紙: 六甲山に咲くヤマアジサイの花

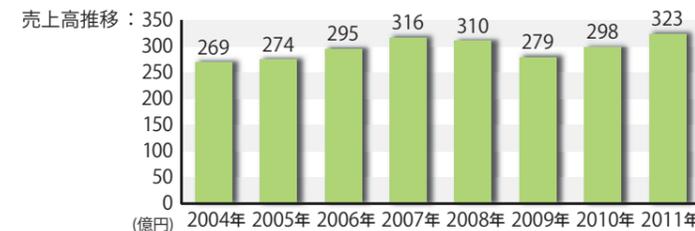
| | | | |
|------------------------|-------|----------------|--------|
| はじめに・会社プロフィール | ・・・ 1 | ビジネスパートナー様とともに | ・・・ 17 |
| トップメッセージ | ・・・ 3 | 社員とともに | ・・・ 19 |
| コベルコシステムのCSRへの取り組みについて | ・・・ 5 | 地域社会とともに | ・・・ 25 |
| お客様とともに | ・・・ 9 | 社会とともに | ・・・ 29 |

経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

コベルコシステム株式会社プロフィール

会社名称: コベルコシステム株式会社
 設立: 1983年10月1日(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
 1987年 7月1日(コベルコシステム株式会社に商号変更)
 代表者: 代表取締役社長 川瀬 俊治
 株主: 日本アイ・ピー・エム株式会社 51%
 株式会社神戸製鋼所 49%
 資本金: 4億円
 社員数: 1019人(2012年1月1日現在)
 関連会社: コベルコソフトサービス株式会社
 本社: 〒651-0072 神戸市中央区脇浜町2丁目11番14号(神鋼ビル NEOエスト)
 URL: <http://www.kobelcosys.co.jp/>
 売上高: 323億円(2011年度)
 売上高推移:



事業所:



コベルコシステムは、2012年に設立25周年を迎えます。
これまでの四半世紀も、そしてこれからも、コベルコシステムは、
“お客様とともに”、“ビジネスパートナー様とともに”、“社員とともに”、“社会とともに”と
“ともに”の精神で活動し続けます。



2009-2011中期経営計画“チャレンジ7”を振り返ると、2008年のリーマンショックを起点とした世界経済の低迷が国内経済に影響し、初年度の2009年はコベルコシステムも売上高で前年の1割減という結果に終わりました。

2010年は、一部で経済活動の持ち直しの兆しが見られたものの、まだまだ日本経済全体に不透明感がぬぐえない年でした。そのような状況下でありながら、ステークホルダーの皆様のご支持のお陰で目標を超える業績を収めることができました。

“チャレンジ7”最終年度の2011年は、東日本大震災により再び日本経済に暗雲が垂れこめるといふ厳しい環境でしたが、コベルコシステムは設立来最高売上高を達成することができました。このことは、設立から25年の歳月を“お客様とともに”、“ビジネスパートナー様とともに”、“社員とともに”、“社会とともに”と“ともに”の精神で活動し続け、“お客様”、“ビジネスパートナー様”、“社員”、“社会”からコベルコシステムが必要とされる企業になった、その成果であると考えています。

コベルコシステムは、これからも変わることなく、“お客様とともに”、“ビジネスパートナー様とともに”、“社員とともに”、“社会とともに”と“ともに”の精神で活動し続けます。

具体的には、CS(Customer Satisfaction: お客様満足度)向上活動、ES(Employee Satisfaction: 社員満足度)向上活動をはじめとして、コンプライアンス、品質保証、情報セキュリティといったステークホルダーの皆様の信頼をさらに向上させる活動や、社会貢献、環境保護など「社会との調和」を図っていく活動に、マネジメントと社員が一体となって積極的に取り組んでいきます。

2012-2014中期経営計画(Growth 2014)に込めた“想い”

色々なことが重なった2011年。東日本大震災はすさまじい爪あとを残しましたが、コベルコシステムが携わってきたお客様をはじめ、多くの企業が、いち早い回復に向けて懸命に取り組まれています。戦後最大の国難を乗り越えるために日本人が互いに協力し合う姿は、世界に感銘を与えました。震災以来輝きを放っているのは日本人が持つ不屈の精神です。経済のグローバル化が加速し、予期せぬことが起こる時代に、日本が海外から驚嘆されるほどの復活力をみせたのは、日々培ってきた人々の「現場力」があるからこそだと思います。海外では想像できないといわれるほどに規律を守り、コミュニティのために献身的な努力をしてきた日本の精神が、さらに輝きを放ち、これまで以上に不屈の精神で力強くなることが期待されています。

翻ってコベルコシステムでは、2011年、「2012-2014中期経営計画」を策定しました。中期策定に際し、参考にさせていただいたものの中に、昭和60年に発刊された本田宗一郎さんの『得手に帆あげて』(三笠書房)があります。この本で語られている想いは、これからの厳しい環境に立ち向かう者の背中を力強く押してくれるものでした。

本田宗一郎さんは、来たるべき「地球時代」には、セオリー通りに考えたり行動したりせず、色々なことへの探究心を持ち、発想を展開する過程で、新しい真理の発見と進歩が生まれる「創造的破壊の発想」が必要だと提言しています。特に、シビアな競争をしなければならない時代には、創意工夫が不可欠で、一人ひとりが自分の能力を最大限に生かす「得手に帆あげて」の発想が重要であると述べています。合理性を基盤とし、真理に忠実で理論を尊重し、さらに、絶えず広い視野から未来へ新しいものを生み出そうとする意欲を持つ若い人たちが、それぞれの潜在能力を最大限に発揮できるようになるならば、これは大きなエネルギーになるはずだということです。そして、『得手に帆あげて』で本田宗一郎さんは、どんな環境にあっても社員のそれぞれが持っている能力を発揮することの大切さを訴えています。社員それぞれの個性はオーケストラを構成している楽器だと例え、それぞれが違うからこそ創造性が生まれるとしています。確かに、会社はオーケストラのようなもので、個性を強調し、潜在能力を引き出しながら、全体としてのハーモニーをどうやって作り出すかが重要な仕事となります。人は誰でも途方もなく大きな可能性を秘めており、それを徹底的に生かす場を作れ、ということだろうと思います。

新しい経営中期計画の策定において、社員代表からなる中期戦略タスクを編成し、コベルコシステムの「得手」について徹底的に議論しました。そして、より広くお客様にご満足いただけるようレベルアップを図るべき“成長領域”、これからのソリューションとしてお客様が期待されている“チャレンジ領域”、お客様のご期待に沿ってさらに変革していく“変革領域”を定義し、これらの領域における以下のソリューション・サービスをコベルコシステムの「得手」と決めました。

| 成長領域 | チャレンジ領域 | 変革領域 |
|---|--------------------------------|----------------|
| ・製造業向けトータルソリューション ・老朽化した基幹システムの近代化 支援サービス | ・クラウドサービス ・お客様のグローバル化支援サービス | ・価値創出型保守開発サービス |

このような策定過程を経た2012-2014中期経営計画のキーワードを、さらなる成長を目指す意を込めて「Growth」としました。これらのソリューション・サービスを進化させ、「Growth」という新中期経営計画の実現に向けて、得手に帆をあげ、その帆をいっぱい広げて、お客様とともに成長を図っていきたくと思います。

前中期経営計画“チャレンジ7”では、コベルコシステムの基盤を活かし、その成長を確かなものにしていくために「全ての質を高めよう!」との掛け声の下、ワンランクアップの活動を追求してきたことにより、着実な成果を実感できました。過去から整備・構築してきたコベルコシステムの経営の根幹を成す“品質”や“デリバリー”を支える仕組み、営業支援や人材育成など多くのプロセスを活かし、強い会社へのステップアップができたと感じています。しかし、同じことをしてはすぐに取り残されてしまいます。常に、「今より良くしていく」という強い信念を持ってさらにレベルアップしていくことが必要です。新中期経営計画“Growth 2014～成長への変革～”で、コベルコシステムをより確かな成長軌道に乗せていきます。厳しい経済環境の中、ITサービス会社はその価値をいかに高めるか、真価を問われる時代になってきました。コベルコシステムは、「得手」に一層磨きをかけるとともに、常にお客様の視点で一緒に考え、実行し、パートナーシップをさらに高められるよう、これからも励んでいきます。

代表取締役社長 川瀬俊治

コベルコシステムのCSR への取り組みについて

ステークホルダーとマテリアリティ

ITソリューション/サービスを通じて
お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

法令等を正しく理解・遵守し、
行政との良好な関係を保つ

- ① コンプライアンス意識を常に持ち、社会から信頼される会社になります
- ② 社会要請に幅広く応え、行政との良好な関係を保ちます

社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である
～ 3T (楽しい、短時間、達成感) 職場の実現 ～

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人たちから、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

ビジネスパートナー様と健全で
Win-Winの関係を築く

- ① 公正でCSRに基づいたパートナーシップを維持します
- ② 当社との協業を通じてビジネスパートナー様とともに経営基盤、経営品質の向上を目指します

日本IBM、神戸製鋼所のグループの
一員として企業活動を推進する

- ① 親会社の企業理念を理解し、グループブランドを大切に活動し、グループの発展に寄与します
- ② 親会社と連携してCSR活動を推進し、社会への貢献を果たします

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、
企業市民として社会への貢献を確実に実行する

- ① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します
- ② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

マネジメント・経営品質

■ 経営品質向上プログラム

コベルコシステムのマネジメントは、常にお客様満足の追求を経営の中心に置き、組織プロセスを変革するという基本的な考え方に沿って行われています。組織プロセスの変革は、「日本経営品質賞委員会」の経営品質向上プログラムを軸にした取り組みによって継続してきています。その取り組み状況を、8つの視点＝カテゴリー（1. 経営幹部のリーダーシップ、2. 経営における社会的責任、3. 顧客・市場の理解と対応、4. 戦略の策定と展開、5. 個人と組織の能力向上、6. 顧客価値創造のプロセス、7. 情報マネジメント、8. 活動結果）で評価しています。

2009-2011年中期経営計画「チャレンジ7」で掲げた「4つの追求」は、経営品質向上プログラムの4つの基本理念そのものです。

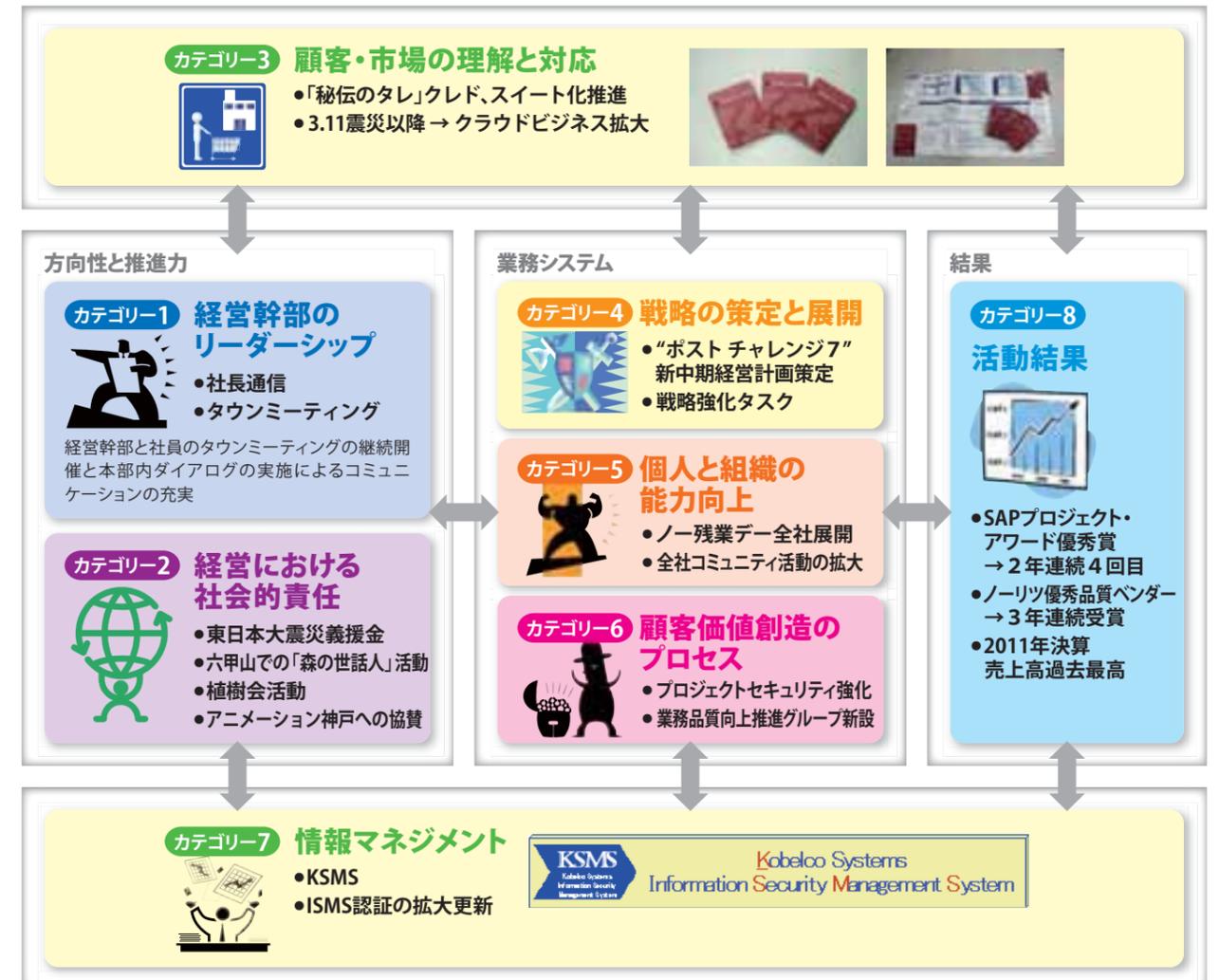
- ① 顧客本位：お客様に信頼される真のパートナー
- ② 独自能力：他社との違い
- ③ 社員重視：プロフェッショナル人材
- ④ 社会との調和：企業倫理の遵守と健全な成長

“4つの追求”を継続して取り組んだことで、“チャレンジ7”の最終年度に当たる2011年、下表に示しましたように、すべてのカテゴリーで優れた成果を生み出しました。

これは、経営品質向上サイクルがコベルコシステムのマネジメントに定着したことの結果と評価しています。

2012-2014年次期中期経営計画においても、経営品質向上プログラムをマネジメントの軸に置き、絶え間ない変革を継続し、お客様満足を追求し続けます。

経営品質向上プログラムのフレームワークと2011年の活動成果



コベルコシステムのCSR への取り組みについて

CSR推進活動について

- CSR推進活動方針**
- ①ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する。
 - ②コベルコシステムの身の丈に合った、かつ、コベルコシステムならではのCSR活動を展開する。
 - ③さまざまな活動への参画を通じて、CSRに対する理解を社内に広く浸透させる。

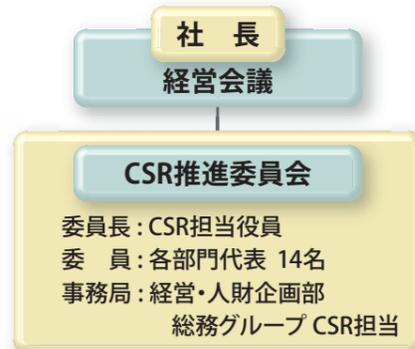
コベルコシステムは、2009-2011中期経営計画で掲げた4つの追求、「お客様に信頼される真のパートナー」、「他社との違い」、「プロフェッショナル人材」、「企業倫理の遵守と健全な成長」を推し進めていくために、CSRの考え方に基づいた種々の取り組みを行ってきました。

このCSR活動を全社で継続するために、2009年「CSR推進委員会」を中心とした組織体制を構築しました。

「CSR推進委員会」は、社長をオーナーとし、役員が委員長を務め、各部門から選出された「CSR推進委員」から構成しています。そして、「CSR推進委員会」が、全社のCSR推進活動方針の立案や、重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループ活動、社内外へのCSR情報の開示といったコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月から、「適正取引推進委員会」と「CSR推進委員会」を統合し、適正取引に関する活動は、CSR推進活動のコンプライアンス強化活動の一環として継続する推進体制に再編しました。

CSR推進体制



コンプライアンス推進活動

事業活動にあたり、倫理観に基づき法令等を遵守することは、お客様に信頼される真のパートナーになるためには必ず取り組まなければならないことです。そのために、コベルコシステムの社員一人ひとりが、IBMグループ企業の社員として、次に掲げるIBMのバリューを共通のものとし、そのバリューに沿った判断をしなければなりません。

お客様の成功のために全力を尽くす

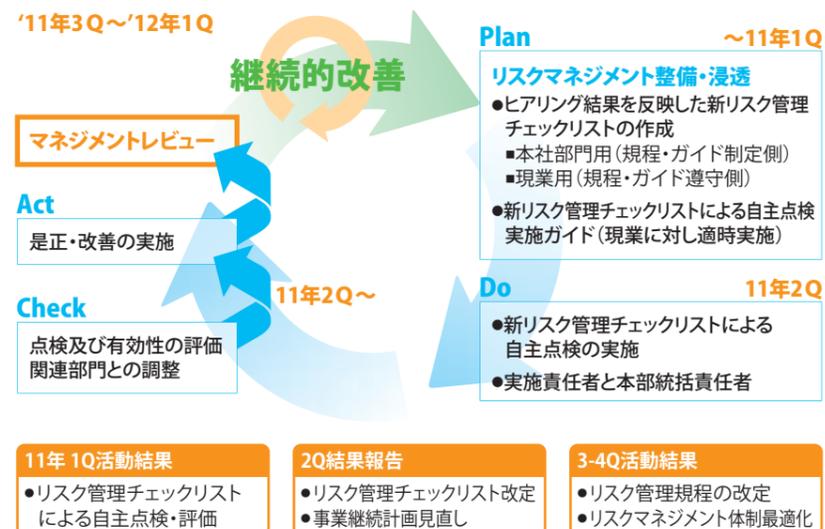
私たち、そして世界に価値あるイノベーション

あらゆる関係における信頼と一人ひとりの責任

このバリューを守るために、企業倫理規程を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

さらに、コンプライアンス推進活動の一環として、コベルコシステムの企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して、適切な対応を可能にすることが求められています。このためにリスクマネジメント活動を継続しています。当社のリスクマネジメントは、リスク管理チェックシートを用いた自主点検がその取り組みの中心となっています。自主点検結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し、実施するリスクマネジメントサイクルを回しています。

2011年度リスクマネジメント推進活動結果



11年1Q活動結果

- リスク管理チェックリストによる自主点検・評価

2Q結果報告

- リスク管理チェックリスト改定
- 事業継続計画見直し

3-4Q活動結果

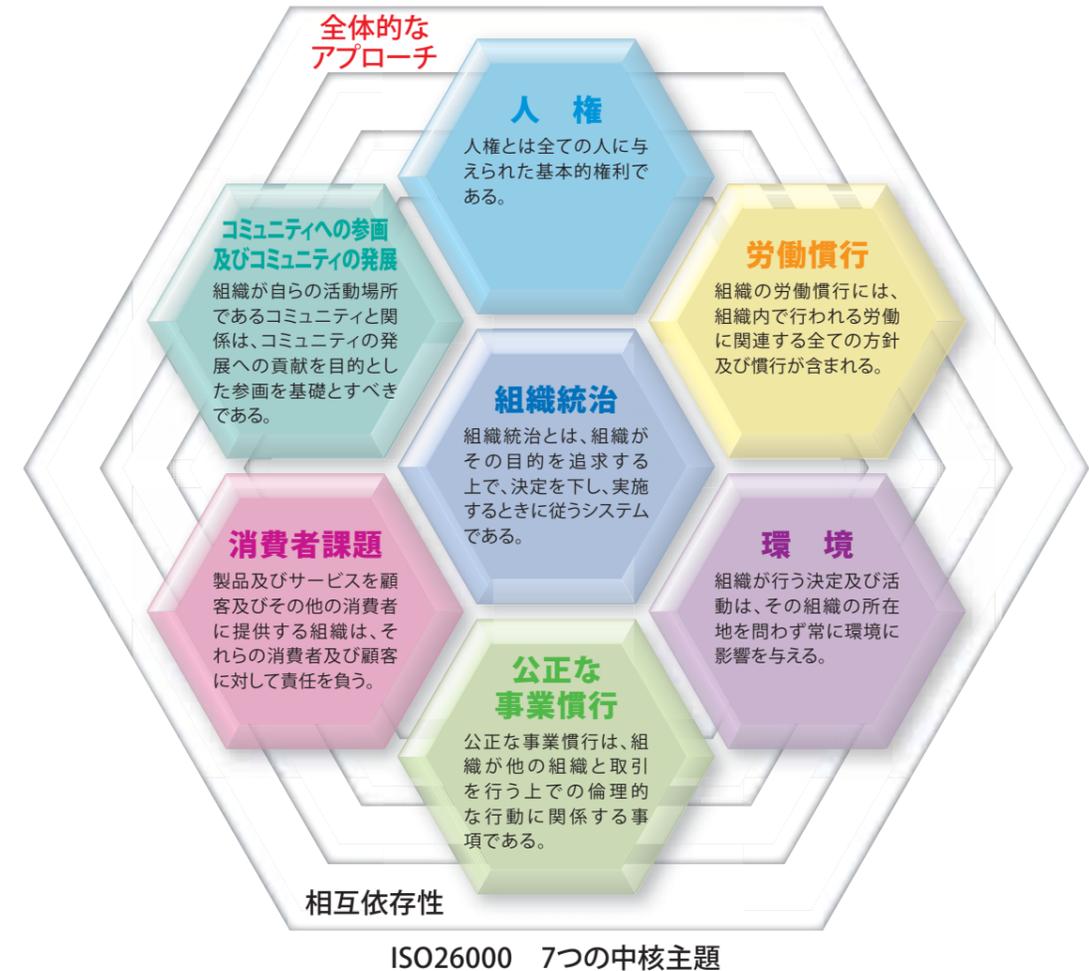
- リスク管理規程の改定
- リスクマネジメント体制最適化

国際規格とコベルコシステムのアプローチについて

企業の持続可能な発展のために、国や地域、業種・業態、企業規模の大小を問わず、企業とそのステークホルダーは、社会的に責任ある行動の必要性、また、社会的に責任ある行動をとることによって得られるもの（社会的信用など）を重要なテーマとして強く意識するようになってきました。これを受けて、2010年11月には、社会的責任に関する手引きとして国際規格ISO26000が発行されました。

コベルコシステムでは、以下のテーマについて、国際規格ISO26000を踏まえてCSR活動に取り組んでいます。

ISO26000 (Guidance on social responsibility)



ISO26000 7つの中核主題

| 7つの中核課題 | コベルコシステムのアプローチ |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 組織統治 | INTEGRITY研修、企業倫理規程への同意、リスクマネジメント推進 |
| 人権 | 社員の成長と働きがいの追求 |
| 労働慣行 | 3T(楽しく、短時間、達成感)活動による適正な労働環境整備 |
| 環境 | 社会貢献活動の一環としての「六甲山クリーンハイク」や「森の世話人活動」 |
| 公正な事業慣行 | ビジネスパートナー様との健全でWin-Winの関係 |
| 消費者課題 | お客様の発展とチャレンジへの貢献 |
| コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 | 企業市民としての社会への貢献 |

ITソリューション/サービスを通じて お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

お客様の期待の一步先へ

お客様の成功に貢献して、パートナーとして永くお付き合いいただくことがコベルコシステムの想いです。変化のスピードが激しく、その方向性が予想しにくいこの時代を生き残るため、お客様は新たな価値創造に向け、ITに掛ける役割と期待をさらに高めておられます。コベルコシステムは、その変化を俊敏に感じ取り、さらに進化したソリューションをお届けしていくことで、お客様の期待の一步先をお応えしようとしています。

■ APS(アカウント・プランニング・セッション)

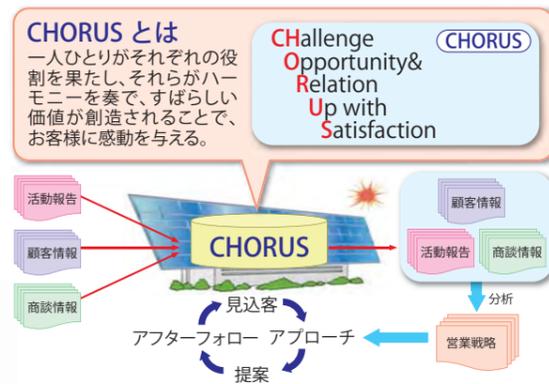
コベルコシステムでは、お客様について理解を深めることが重要と考えています。お客様をとりまく環境や課題、戦略などを理解し、どのように貢献できるか、そのためには誰がどのような活動をすればいいか、APSではマネージメントを含めてチームメンバー全員で知恵を出し、最適なソリューションの検討と活動計画を策定します。

■ SET/MET

お客様の要望や期待を直接お伺いし、それに対する具体的な目標とアクションをお客様とともに決定します。これをSETと呼びます。コベルコシステムはこれに沿って活動し、その結果をお客様にご評価いただきます。これをMETと呼びます。お客様の期待に応えられているか、応えられていないなら、それはなぜか、どうすればいいかを考えて実行することで、お客様との信頼関係を構築し、お客様の成功に貢献していきます。

■ CHORUS

お客様を深く理解し、そのニーズに的確に応えていくには、お客様に関するさまざまな情報を全社で共有して活用することが重要です。「お客様」という切り口で、これをサポートするシステム「CHORUS」を構築し、コベルコシステムの情報基地のひとつとして活用しています。



お客様にご満足いただくために

お客様満足(CS)度向上の観点から、コベルコシステムの経営課題を共有するために「CS委員会」を設置し、全社レベルの課題に対して、継続的かつ迅速な行動を取れる仕組みを構築しています。CS委員会は、2011年12月で94回の開催を数えました。お客様の声をベースに、お客様にお届けする価値の最大化に向けて活動しています。

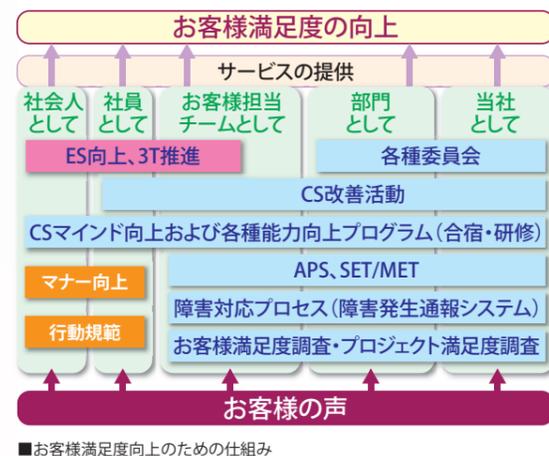
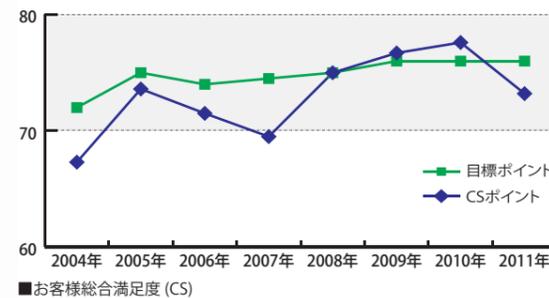
■ お客様満足度調査

お客様のご満足やご評価を今後の活動に活かすため、毎年、お客様にアンケート調査を行っています。営業/SEの活動、サービスや成果物、事務処理などの質問項目に対し、数字での評価と合わせてコベルコシステムが改善すべき点など、忌憚のない意見をいただくようになっています。いただいた内容を分析して改善アクションに展開し、その進捗状況をお客様と情報共有します。お客様の期待や真意を理解することで、パートナーとして認めていただけるようにさらに成長を図っていきます。

2011年の改善施策

- ① 品質のさらなる向上への対応
- ② プロジェクトセキュリティの強化
- ③ サービス満足度調査の実施
- ④ 営業プロセス支援グループの充実
- ⑤ 先進技術への取り組み強化

2011年のお客様満足度の総合ポイントは、昨年より下がる結果となりました。大きな期待とともに厳しいご指摘もいただきました。この結果を真摯に受け止め、新たな課題解決に向け取り組んでいきます。



お客様の声

2011年のお客様満足度調査でいただいたコメントから

- 「弊社の状況や情報が御社内でしっかりと共有されており、いつもスムーズにお話ができて満足しています」(製造T社様)
- 「高い品質、生産性で各種プロジェクトを遂行いただいた。さらに高いレベルでのパートナーシップを発揮していただきたい」(金融N社様)
- 「こちらから要望を伝えるのではなく、日頃からニーズを理解して、貴社から積極的に提案いただけることを期待します」(製造K社様)
- 「今後も新規技術を取り入れながら、更なるコストダウンの提案をお願いします」(製造S社様)
- 「日頃接しているメンバーだけでなく、バックオフィス側のサポートも含めて、総合力を発揮できる体制を期待します」(金融T社様)

CS意識のワンランクアップ

どんなにいい仕組みやプロセスがあっても、それを実践する社員がその真髄を理解せず、お客様の期待の一步先を行く気概がなければ、お客様の満足は到底得ることはできません。一人ひとりのCS意識のワンランクアップのため、以下の活動を継続して行っています。

■ 中堅社員によるCS合宿討議

「社員一人ひとりの「腑に落ちた、腹の底から」のCS意識の浸透」を狙い、2010年の若手メンバーによる合宿討議に引き続き、2011年は中堅メンバーで実施しました。合宿テーマとして「CSをもっと向上させる」を取り上げ、集中討議の中で、一人ひとりの「腑に落ちた、腹の底から」のCS意識の浸透を図るとともに、参加者から提起された課題・提言を、今後の施策に展開しています。

■ CS改善活動

社員一人ひとりが現状に甘んじることなく、自発的に、一層お客様の満足を得られるよう、従来から職場チームによるCS改善活動に取り組み、2011年も35チームがCS改善活動に取り組みました。この活動を通じて、社員が問題意識を持ち、事実を検証し、原因を見極め、真に効果的な対策を立案・実施できる能力の向上を図っています。最近では自部門中心の活動から、他部門と連携した活動へ、さらにお客様と連携した活動へと活動範囲を拡大し、お客様視点をより多く取り込んだ活動になってきています。9月5日には、全社CS改善活動発表会を開催し、多くの社員の参加のもと、改善活動の事例の発表と共有を行いました。

■ 社員が社員を表彰する

2010年に行った若手社員によるCS合宿で提言された「社員が社員を表彰する「CS表彰」」を新設しました。これは、お客様からの信頼獲得に向け地道な活動を行っている人も評価しようとするもので、チームやグループでその活動内容を共有し、お客様視点を体感します。3名以上の社員から推薦された社員を四半期毎に表彰するとともに、その表彰理由を社員全員で共有することで、お客様視点を体感し気づきが得られるようにしています。

■ e-ラーニング

社員一人ひとりがお客様中心の活動の重要性を再認識する目的で「お客様視点経営に学ぶ」と題するe-ラーニングを毎年全員が受講しています。

CSスローガン

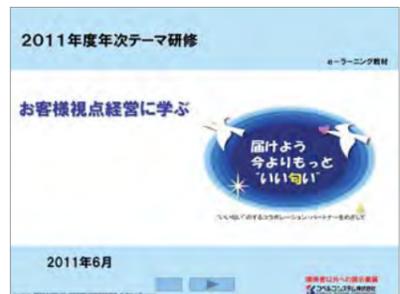
毎年、社員からCSスローガンを募集し、その中から社員全員で投票してCSスローガンを決めていきます。2011年は、「届けよう 今よりもっと「いい匂い」」をCSスローガンとして、CS意識の向上を図りました。2012年のCSスローガンは、「感じよう!お客様の声 越えよう!お客様の期待」が選ばれました。このスローガンのもと、社員一人ひとりが、お客様の期待を越えられるように尽力していきます。



■中堅社員によるCS合宿討議



■全社CS改善活動発表会



■e-ラーニング



ITソリューション/サービスを通じて お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品質なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

プロフェッショナルな能力で価値をお届けする

コベルコシステムの最大の財産は人です。一人ひとりが能力を最大限に発揮してこそ、お客様に最大の価値をお届けできると考えています。全員がプロフェッショナル人財としての向上心を持って、自らの組織の能力を高め合います。

■ アプリケーション (AP) マスターの会

お客様の課題や要求事項を詳しく正確に理解し、共有するには、業務知識とその実践スキルが必要です。コベルコシステムは、2004年から「業務知識の継承と修得」を促進する「アプリケーションマスター認定制度」を設けています。この制度は、厚生労働省が主催する公的資格試験「ビジネス・キャリア検定試験」等の合格を条件に、さらに総合的な実践スキルを問うため、社内有志者による面接試験、論文などの要件を満たした社員を認定する制度です。技術・スキル委員会では、業務知識の向上に関する活動を継続しており、基本スキルアップとゴールド認定者の増加を目指して、「アプリケーションマスターの会」を生産管理、経理・財務の分野で活動しています。

■ プロジェクトマネージャー (PM) 研修

コベルコシステムでは、独自のカリキュラムによるPM育成にも注力しています。PM初級者(小規模プロジェクトのPM経験レベル)を対象とした「PM育成研修」により「コベルコシステムのPM」としての基本スキルを身に付け、さらに自ら経験したプロジェクト管理を通じて認識した課題・問題を題材としてPMとしての対応策を検討する「PMフォローアップセッション」を実施しています。また、客観的に評価するために、KCP-PM (Kobelco systems Certified Profession PM) 認定制度を設けています。これは「当社発展の牽引力となる人財の育成と登用」を狙いとするコベルコシステム独自の認定制度で、経験に裏打ちされた高度な専門技術・スキルを保有し、PMとして継続的・安定的に、大きなビジネス貢献をしていることを条件としており、よりレベルの高いPM育成につなげています。



■ プロジェクトマネージャー研修



外部からの評価

お客様に納めた先進的なプロジェクトやその開発のベストプラクティスをまとめた論文などを評価いただきました。

■ SAP Award

2011年は、株式会社東京機械製作所様向け「基幹業務システム刷新プロジェクト」が『SAP AWARD OF EXCELLENCE 2011 プロジェクト・アワード優秀賞』を、また、2012年は、太平電業株式会社様向け「ERP導入プロジェクト」が『SAP AWARD OF EXCELLENCE 2012 プロジェクト・アワード優秀賞』を受賞しました。これにより、「プロジェクト・アワード優秀賞」は3年連続5度目の受賞となりました。コベルコシステムは、2003年の「サービスパートナー部門賞」に始まり、数々のSAP Award受賞実績があります。

■ MCFrame Award

「MCFrame Award 2011」のExcellent Partner Awardを受賞しました。2009年度に続き2度目の受賞となります。

■ 第49回IBMユーザー論文で2編が優秀論文として入選

- ITモダナイゼーションアーキテクチャ構築の勘所
- LEAN (トヨタ生産方式) によるシステム運用の改善

■ お客様からのありがとう

コベルコシステムにとって一番うれしいのは、お客様からの「ありがとう」です。今年もお客様からたくさんの「ありがとう」をいただきました。これからも「いい匂い」を感じていただけるよう、お客様のコラボレーションパートナーとして尽力して参ります。



■ SAP AWARD OF EXCELLENCE 2012 受賞式

KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook (KTO) の展開

コベルコシステムでは、コベルコシステムのビジネスに関連する技術・スキルを発展的な視点で鳥瞰できる「KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook」(KTO)を、2006年から作成しています。

KTOの内容は、毎年、定期的に更新され、その時点でのコベルコシステムの事業メニューに特化した技術や先進技術への取組みの方向性を示しており、お客様の価値創造への貢献を目指して、全社員はもちろん、お客様とも情報交流会等を通して共有していただいています。

【構成】

■ 業界動向

「いち早くキャッチアップすべき、新しい技術は何か?」「競争力を保つのに必要な技術は何か?」... ITを利用する多くの人々がどのような技術に関心があり、またその成熟の度合いを知ることは重要です。全体を網羅し、俯瞰することにより、その年の技術トレンドを理解することができます。

■ 技術動向

IT業界のビックベンダーは、自ら業界のイノベーションをリードしていますが、新技術への期待は過剰な宣伝により一時的に高まります。技術の黎明期から安定期にいたるまでの、成熟度の変化を捉えて技術の採用時期を考慮することが必要です。技術動向では、中長期の技術を鳥瞰することができます。

■ 先進技術フォーカス分野

先進技術フォーカス分野は、コベルコシステムの先進技術への取組みの方向性を示し、今後の事業メニューを支える技術をリードします。いち早く、先進の技術をお客様にお届けできるよう、コベルコシステムは常にチャレンジを続けます。

■ 事業メニュー特化技術

コベルコシステムは、お客様の課題を解決し、お客様価値創出に貢献するため、事業メニューに特化した技術を追求しています。お客様とのパートナーシップの強化を通して、お客様の競争力向上に貢献します。



■ 冊子「KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook ご紹介」内容の一例

クラウドサービスの提供を開始

中堅・中小企業および地方公共団体向けに販売されている実績のあるソリューションをクラウド型で提供するサービス『SmartCrew』を2011年9月15日から開始しました。コベルコシステムが開発したアプリケーションやISV (独立系ソフトウェアベンダー)が開発した文書管理システム、コラボレーションツール、節電ソリューション、財務会計、給与計算、経費支払、販売・生産管理などへの展開を考えています。早く、安く、洗練されたアプリケーション・パッケージをクラウド型で提供することで、大きな初期投資をすることなく、すぐにアプリケーションを利用することができます。また、セキュリティの維持・管理など手間のかかる保守作業からも解放され、安心して使うことができます。

SmartCrew

技術・スキル委員会

技術・スキル委員会は、役員を委員長に各本部の開発部長合わせて約20名のメンバーで構成しており、プロジェクト品質の向上、品質保証体系の策定、グローバル開発を含めた生産性向上、今までに蓄積した経験の資産化推進(「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」)など、お客様にお届けするサービスの「高品質」と「高生産性」を追求しています。

2011年の活動

- ① アセット化推進
- ② 現場プロジェクトマネジメント力強化
- ③ KTO2011の構築
- ④ アプリケーションマスター育成
- ⑤ ベテラン社員の知識形式化
- ⑥ 各本部の取り組みの紹介
- ⑦ 社内コミュニティ活動の活性化推進
- ⑧ 全社共通技術・スキル関連トピックの講演会開催



■ 「秘伝のタレ®」クレド 2011年版

ITソリューション/サービスを通じて お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

お客様事例 ～株式会社村田製作所様 基幹システム再構築プロジェクト～

株式会社村田製作所様 (<http://www.murata.co.jp/>) の本社は、長岡天満宮や秋の紅葉で名高い光明寺などで有名な京都府長岡京市にあります。JR京都線長岡京駅前の本社ビルからは京都盆地を取り囲む山々や天下分け目の天王山が一望できるなど、たいへん環境の良いところに立地しています。

「ムラタが作っている電子部品のことを、多くの人は知りません。けれども、ほとんどの人はムラタの電子部品を使っています。パソコン、携帯電話、家電製品、カーエレクトロニクス…。より小さく、より高性能に、日々めざましく進化を続ける電子機器の中で、ムラタの電子部品は活躍しています。」

(『MurataReport2011』から)

株式会社村田製作所様には世界シェアの高い製品も少なくありません。連結売上高617,954百万円、連結従業員数35,337名(いずれも平成23年3月期)。国内外に多くの製造拠点、販売拠点を持つ総合電子部品メーカーです。すっかり同社のマスコットになった「ムラタセイサク君」「ムラタセイコちゃん」をご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これらは同社の開発スタッフが自社製品をふだんに組み込んで制作したロボットたちで、ジャイロセンサでバランスをとり平均台走行などもこなす優れもので、自社製品の展示会だけでなく各地の学校や施設を訪問する人気者です。訪問先では自転車や二輪車に親しむ子供たちから拍手喝さいを浴びるとのこと。ロボットを携えての訪問活動は、子供たちの科学への関心を高め、理科嫌いをなくす社会貢献活動のひとつだとも伺っています。



■本社ビル(長岡京市)

株式会社村田製作所様が基幹システムの再構築に本格的に着手されたのは2006年春のことでした。当時稼働していた旧システムは汎用機を使うレガシーシステムで、事業規模の拡大に対応しきれなくなりつつあったこと、プログラム言語・データベースともサポートできる技術者が不足してきていることから、将来にわたって継続運用することにサポート面での不安があったそうです。事業を支える基幹システムに万一のことがあってはならない、という思いから再構築を決断されました。

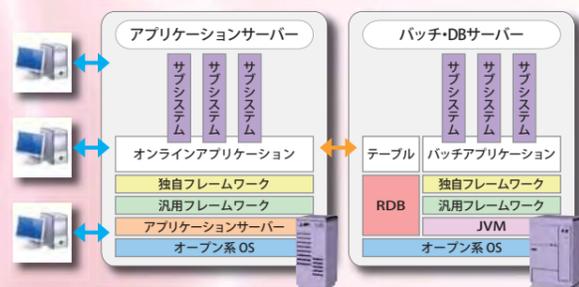


■ムラタセイサク君(左)とムラタセイコちゃん(右)

基幹システムの再構築に、コベルコシステムは最初から参画させていただきました。この再構築において、コベルコシステムはアプリケーションシステム的设计、実装をはじめ、さまざまなソリューションを提供させていただきました。

- ・新しい基幹システムのアーキテクチャ構築を支援
- ・ミッションクリティカルなデータを取り扱う上で必須となる、開発局面での性能品質の造り込み、SQL・データベースチューニング
- ・大規模開発案件のプロジェクトマネジメントに関わる管理手法やプロジェクトに最適化したツールの開発・提供

これらは、コベルコシステムが提供している「秘伝のタレ®」のひとつである「ITモダナイゼーション」をベースにしたソリューションです。「ITモダナイゼーション」とは、従来のレガシーシステムに対しオープン技術を利用して柔軟な情報システム基盤を確立し、その上に業務アプリケーションを構築することで変化対応力のある情報システムを実現するものです。この再構築は約4年にわたるプロジェクトでしたが、無事に本番稼働して汎用機の撤去に成功されました。パフォーマンス面でも問題はなく、文字通り事業を支える「基幹システム」として日々、安定して稼働し続けています。



■基幹システム概念図

お客様事例 ～株式会社アシックス様 ファシリティ移設プロジェクト～

株式会社アシックス様 (<http://www.asics.co.jp/>) は神戸市に本社を置く、各種スポーツ用品および各種レジャー用品の製造・販売を主力事業とするお客様です。「アシックス」、「オニツカタイガー」等のブランドで各種スポーツ用品を展開され、特にスポーツシューズ、中でもマラソン競技やバレーボールなどでは高いブランド力があります。また、海外でも高いブランド力を誇るグローバル企業です。

株式会社アシックス様では、2006年に基幹システムを導入されましたが、その後、新たに関連会社6社がこの基幹システムを利用され、また、サーバ機器保守期間の満了が近づくとともに、夜間処理バッチの遅延など、システム基盤の継続的な稼働を維持することが困難な状況になりつつありました。

そして、今後の業容拡大に備え、早急に基幹システムの刷新に取り組む必要があったほか、運用を委託しているパートナー様の運用業務の見直しができているなど、標準化・適正化が必要な状況でした。

コベルコシステムでは、株式会社アシックス様に対して、2008年から継続してシステムの刷新についての提案活動を続けており、2010年5月からメインパートナーとして株式会社アシックス様とともにプロジェクトを遂行させていただきました。

2011年8月に、基幹システム刷新(SAP)、周辺システム刷新(JOB)、データセンター移設を予定通り完遂いたしました。

その結果、基幹システムの処理能力を2倍に増強し、刷新前に発生していたオンライン業務開始時間の遅延もなくなりました。また、災害時にも事業継続が可能なデータセンターへの移管により安全面が強化され、また、運用業務のスリム化により運用費用のコストを約50%近くまで削減できました。そして、運用システムの変更管理が整備されたことにより、システムのメンテナンススピードが迅速化され、システム利用ユーザから高い評価を得ています。



■国内外で評価の高いスポーツシューズ GT-2170 NY(男性用)



■本社ビル(神戸市中央区)



■スポーツ工学研究所(神戸市西区)

お客様の声

株式会社アシックス 代表取締役社長CEO 尾山 基 様

私達は、スポーツを通じて青少年の健全な育成に貢献することを願い、創業以来、「健全な身体に健全な精神があれかし」を創業哲学とし、すべてのお客様に価値ある製品・サービスの提供に努めております。本プロジェクトでは、長年使用し老朽化・性能劣化がみられる基幹・周辺システムの刷新、煩雑になっている運用業務のスリム化を行い、持続的に価値ある製品・サービスを提供し続けるためのシステム基盤とその運用の再構築を目指しました。「決して失敗は許されない最重要プロジェクトである。時には困難な状況もあるかもしれないが、皆の持つ経験や知恵を結集して、必ず成功を迎えよう」を合言葉にアシックス、コベルコシステム他ITベンダーを含め、総勢30名での成功を誓いました。最終の8月11日から17日の本番移行を行い、大きなトラブルもなく本番を迎える事ができました。また、基幹システムに連動するプロジェクトも進めており、2012年上半旬にリリースする予定です。ビジネス・経営にシステムを活用するという本当の意味での理想的な形になりつつあると感じています。今後も、私達がスポーツマンとして常にベストを尽くしていけるよう、アドバイザー・パートナーとして、変わらぬ支援をいただければと思います。



ITソリューション/サービスを通じて お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品質なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

セキュリティなくしてビジネスなし

コベルコシステムでは、お客様のシステム開発やシステム運用・保守において、お客様の重要情報を取り扱っています。万一これらの情報が漏洩した場合には、お客様および社会に対して大変な迷惑をかけることになるため、情報および情報システムをさまざまな脅威から防御することが必要不可欠です。

コベルコシステムでは、情報を扱うすべての従業者、ビジネスパートナー様およびその他の関係者がそれぞれの役割の中で遵守すべき基準として情報セキュリティポリシーを策定し、それに準拠した実施手順を定めて運用することで、必要な情報セキュリティを確保しています。

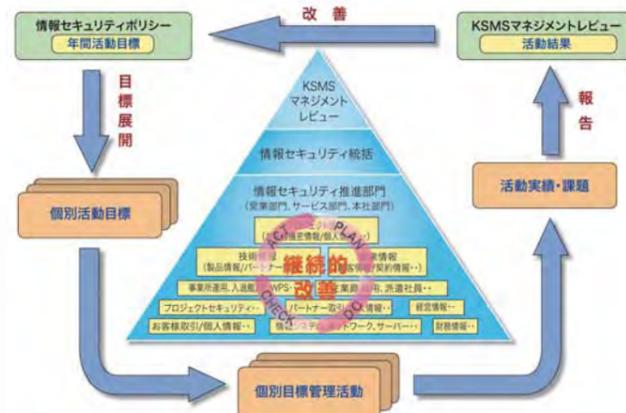
「セキュリティなくしてビジネスなし」を一人ひとりが胸に刻んで行動しています。

なお、個人情報保護については、2000年にプライバシーマーク認定を取得し、その後継続して更新しています。

■ コベルコシステムセキュリティマネジメントシステム KSMS: Kobelco systems information Security Management System

情報セキュリティの水準を適切に維持するためには、状況の変化や情報技術の進歩に応じた対策の変更が重要です。さらに、情報セキュリティポリシーの見直しを定期的に行い、必要に応じて項目の追加や内容の充実を図りながら、将来にわたってその適応性を維持することも必要です。

コベルコシステムでは、これらをKSMSとして定め、継続的なPDCAにより、情報セキュリティにおける対策や適応性の維持を図っています。



■KSMSのマネジメントサイクル

■ ISMS 適用範囲拡大

セキュリティレベルの達成状況をより確実なものとするために、「ハウジングサービス」(2003年)「セキュリティシステム運用管理サービス」(2005年)については、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から取り組む情報セキュリティマネジメントシステムを確立し、第三者によるISMS適合性評価を受けています。

2012年からは、これらのサービスに加え、セキュリティシステム構築などの「ソリューションサービス」にまで認証範囲を拡大しました。お客様からお預かりした大切な情報資産またはその情報資産へのアクセスをいかに高いマネジメント技法による管理下に置き、それを維持し続けるかが、技術力と職人気質を誇りとして持ち、お客様主義を徹底する当社としての重要な使命であると考えています。

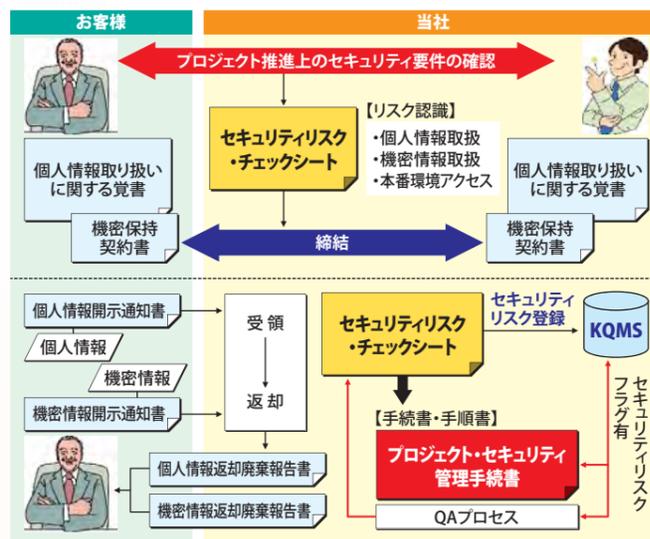
■ プロジェクトセキュリティ・プロセスの強化 PSP: Project Security Process

情報セキュリティに対するお客様の関心が年々高まっている中、コベルコシステムでは、システム構築(SI)/システム保守・運用におけるセキュリティリスク(機密情報取扱・個人情報取扱・本番環境アクセス)を把握して、必要な対応策を実施するPSPの徹底・強化を2009年から推進しています。

PSPでは、プロジェクトセキュリティ・リスクのチェック結果に基づく「守るべき情報資産の特定」「アクセス権/ユーザID管理」「権限分離の評価と対策」「メンバーの着任/離任対策」等の対応策が具体的に定義されており、お客様の合意を得ながら、プロジェクト遂行上のセキュリティ確保に取り組んでいます。

お客様からお預かりしている情報資産を守ることは、コベルコシステムとして重要な使命です。

お客様主義を徹底して、高いマネジメント技法・技術力と職人気質を誇りとして持ち、大切な情報資産を守ることに邁進していくことが、コベルコシステムの社会的な責任であると考えています。



■プロジェクトセキュリティ対策概念図

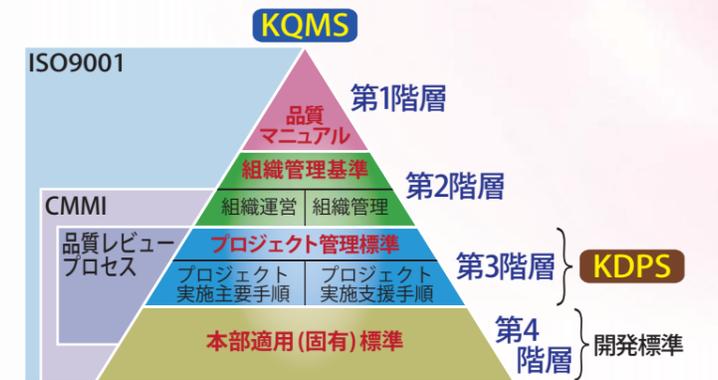
品質向上活動に終わりは無い

コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001(品質マネジメントシステム: Quality Management System)をベースにCMMI(統合能力成熟度モデル: Capability and Maturity Model Integration)の考え方を取り入れ、その取り組みを全社で統一した品質マネジメントシステムである「KQMS」を構築、運用しています。

さらに、この「KQMS」の下にシステム開発・構築のプロセス標準である「KDPS」、個々のサービスプロジェクトの状況をレビューする「品質レビュープロセス」というコベルコシステム独自の仕組みを構築しています。

■ 品質マネジメントシステム KQMS: Kobelco systems Quality Management System

全社で共通のQ(品質)、C(コスト)、D(進捗)の管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況をKQMSサポートシステムで一元管理しています。これによりQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化が実現されており、さらに品質方針・品質目標管理によるマネジメントレビューを通じて継続的に改善活動を行うことによって、組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。



■コベルコシステムの品質管理体系

■ コベルコシステム開発プロセス標準 KDPS: Kobelco systems Development Process Standards

KDPSは、システム開発・構築等のベストプラクティスとしてのプロセス改善モデルであるCMMIの考え方を取り入れ、コベルコシステム独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させており、管理作業の効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。

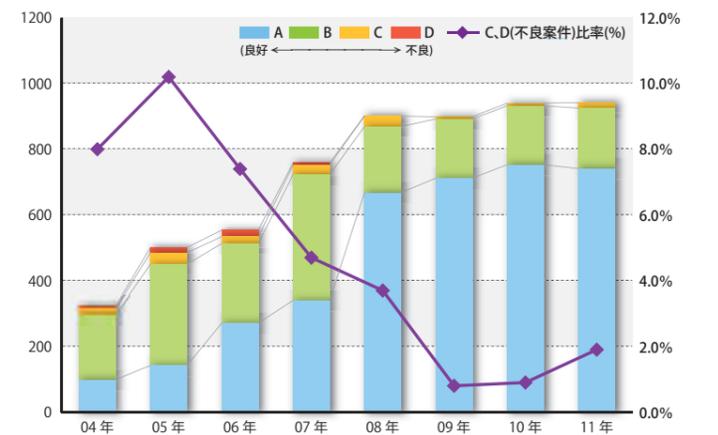
2009年の施行から2年を経過した2011年に全社横断的なKDPSの改善タスクを開始し、さらなるレベルアップを図っています。

■ 品質レビュープロセス

コベルコシステムの品質レビュープロセスとは、個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするために実施している独自のレビュープロセスです。そのため、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象としており、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策策定を行うため、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。

■ プロジェクト教訓情報データベースの社内公開

コベルコシステムでは、毎年、数多くのプロジェクトを実施していますが、過去のプロジェクトから学ぶことはまだまだ多く、うまくいった経験や、うまくいかなかった経験、そのいずれもコベルコシステムにとって貴重な財産です。「品質レビュープロセス」を通じて、多くのプロジェクトの情報が集まりますが、それらの中から選んだプロジェクトのPMに話を聞いて、そのエッセンスをデータベースにまとめ社内公開し、他のPMのスキル向上に役立てています。



■プロジェクトの品質評価別件数

これらの活動により、不良案件(予定に対するQCD異常が認められる案件)の比率は年々減少し、2008年には当初の目標であった4%以下を達成しました。しかし、2009年を底にして2010年以降増加傾向にあり、会社全体でのトラブル検知と予防策のさらなるレベルアップが急務であると捉えています。

今後も引き続き「お客様の満足」向上に貢献する活動を追求していきます。

ビジネスパートナー様と 健全でWin-Winの関係を築く

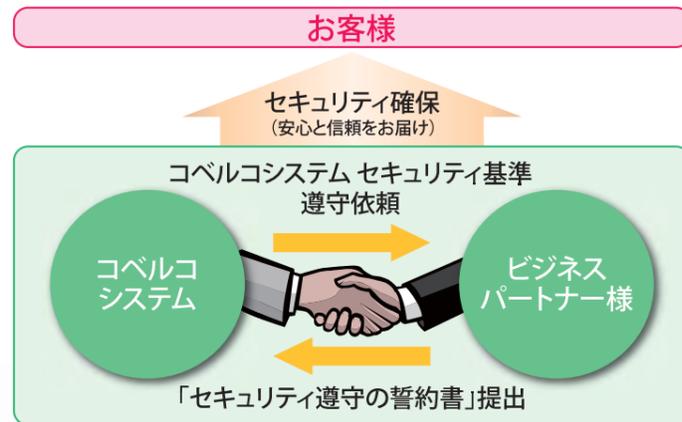
一体となってセキュリティを確保する

コベルコシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、コベルコシステムまたはコベルコシステムのお客先に常駐業務に従事していただく場合がありますが、コベルコシステム社員と同様の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

具体的には、コベルコシステム社員と同様のセキュリティ研修内容を、ビジネスパートナー様の対象社員に理解していただくよう、協業に関する責任者の方に依頼し、ビジネスパートナー様各社独自の方法で研修を実施していただいています。

また、ビジネスパートナー様の対象者全員が履修し、その内容を遵守することを約束していただくため、「セキュリティ遵守の誓約書」をご提出いただいています。

この研修は毎年内容を更新し、ビジネスパートナー様の対象社員にも継続して履修していただくことにより、セキュリティに関するコベルコシステムの遵守事項の浸透を図り、結果としてお客様のセキュリティ確保につなげる認識の下、活動しています。



ビジネスパートナー様のPDCA活動を支援する

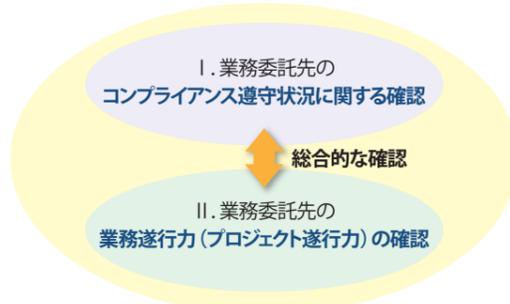
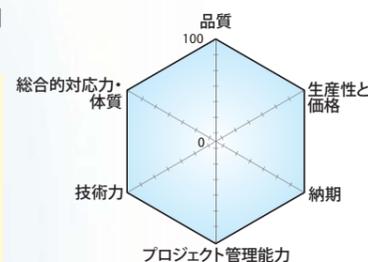
コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の確認とフィードバックを実施しています。この確認は、業務委託先の「コンプライアンス遵守状況に関する確認」と「業務遂行力(プロジェクト遂行力)の確認」のふたつの観点から総合的に行っています。

「コンプライアンス遵守状況に関する確認」では、会社としてのコンプライアンスへの取組みを以下のような項目で確認しています。

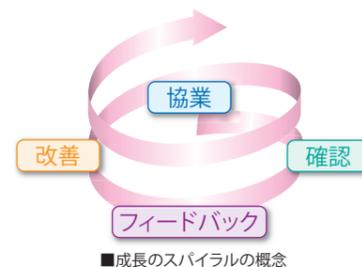
- ① コンプライアンスに関する専任者の設置等
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的認証の取得
- ⑤ 組織的な安全管理、人的安全管理、物理的安全管理、技術的安全管理

「業務遂行力(プロジェクト遂行力)の確認」は、実際のプロジェクトでビジネスパートナー様と協業したコベルコシステムのプロジェクトマネージャーが以下の項目で判断しています。

- ① 品質
- ② 生産性と価格
- ③ 納期
- ④ プロジェクト管理能力
- ⑤ 技術力
- ⑥ 総合的対応力・体質



■ビジネスパートナー様の確認の観点



各ビジネスパートナー様には、さらなるレベルアップを図っていただけるよう、上記の結果をフィードバックしています。

① 公正でCSRに基づいたパートナーシップを維持します

② 当社との協業を通じてビジネスパートナー様とともに経営基盤、経営品質の向上を目指します

適正取引の推進

ビジネスパートナー様にご協力いただく際の委託方式には数種類ありますが、コベルコシステムでは、それぞれの方式に合わせた発注・進行管理を推進しています。その推進のために全社横断型の「適正取引推進委員会」を設け、具体的なガイドをe-ラーニング等により社内徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターの送付、アンケート調査の実施、個別訪問などを通じて協力をお願いしています。

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

最近の主な取り組みとしては、以下があります。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引の推進状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況の確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施に実態確認調査を追加



■適正取引に関する研修(e-ラーニング)

ビジネスパートナー様への感謝

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様への感謝として、年に2回、プロジェクト遂行部門からの推薦を受け、貢献度の高かったビジネスパートナー様へ感謝状を贈呈しています。

2011年1H(上半期)は震災復興支援に関わるプロジェクトにてパートナー様へ感謝状を贈呈いたしました。

また、ビジネスパートナー様からは当社のお付き合いにあたり、以下のようなお声をいただきました。



■震災復興支援に関わるプロジェクトにて西日本電信電話(株)兵庫支店法人営業部様へ感謝状を贈呈(2011年1H)

ビジネスパートナー様の声

アソート株式会社 代表取締役 阿曾 俊二様

当社は、創業当初から様々な案件にパートナーとしてご協力させていただき、大変お世話になっております。お蔭様で創業10年を迎えることができました。

コベルコシステム様に取り組みされているCSR向上活動、コンプライアンス、品質保証、情報セキュリティ等の最新情報を我々パートナー会社にご提供いただき、これらの活動がパートナー企業のレベルアップにも繋がっていると考えます。当社でのCSR活動としては2008年に情報セキュリティマネジメントシステムISO27001を取得し、社会貢献活動においては、コベルコシステム様の六甲山クリーンハイクなどの積極的な取り組みに感銘を受け、当社も微力ながら社会に役立つよう関西および兵庫の盲導犬育成事業への協力を定期的に行っております。また昨年、コベルコシステム様の社内で推奨されている【人間力強化研修】と同様の研修を当社でも社員に対して定期的に行っており、少しでも考え方・行動力のレベルアップを図り、成長できるように努めております。コベルコシステム様の成長戦略の中、微力ながら寄与できる企業であるように努力してまいります。そして、コベルコシステム様の更なる飛躍を願い、その一助として当社が存在、貢献できるように努力し、Win-Winの関係が永く継続できることを期待したいと思います。



社員の成長と働き甲斐が コベルコシステムの企業発展の原動力である

～ 3T (楽しい、短時間、達成感) 職場の実現 ～

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人たちから、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

3T 職場の実現

コベルコシステムでは、当社の最大の財産は人であり、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮することが会社発展の原動力である、という認識の下、「一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現」を人事基本理念においています。この基本理念の下、技術・人間力・情熱あふれる人材で埋めつくし続けたいと願っています。

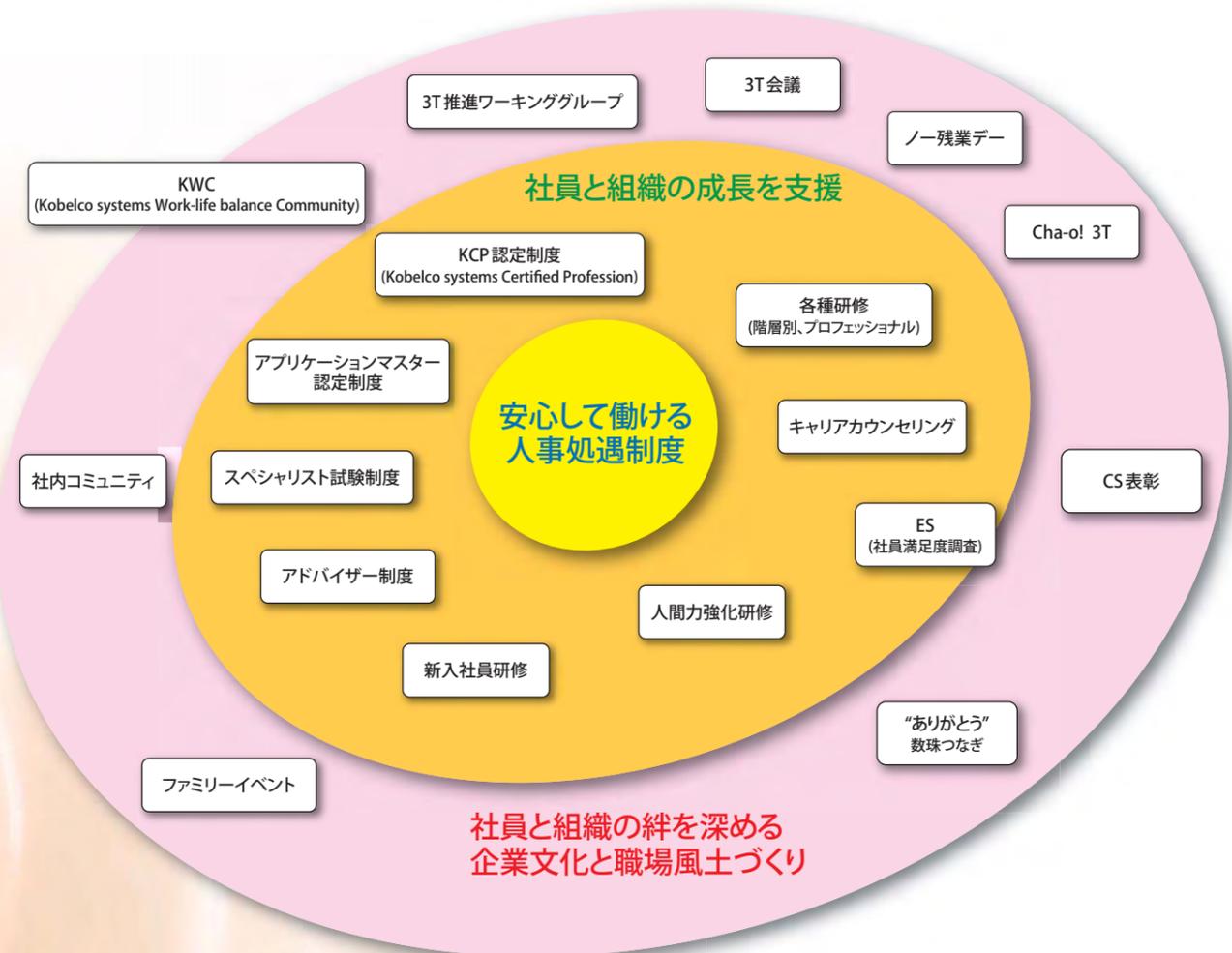
そのため、コベルコシステムでは社員がイキイキと仕事ができる要素を「楽しい」、「短時間」、「達成感」が満たされることと定義し、それぞれの頭文字から「3T 職場の実現」を全社スローガンに掲げ、様々な取り組みを展開しています。

具体的には、安心して働ける人事処遇制度を中核に据え、社員と組織の成長を支援する認定制度や研修機会を提供しています。また、これらを有効活用していくためには、会社と社員および社員間の絆を強め、協力し合う企業文化や職場風土づくりが重要であると考えています。これまでに実施している制度・施策を継続・強化しながら、社員の健康保持・増進を図り、ワークとライフを共に高位バランスさせるために、各部門の実態に合わせた実現性の高い「ノー残業デー」の導入、会議効率化を目的とした「3T 会議」、また、社員からの提言で、社員が社員を表彰する「CS 表彰」、社員が社員に感謝の気持ちを伝える「“ありがとう” 数珠つなぎ」という取り組みを開始しました。

このように、コベルコシステムでは会社と社員の両輪で「3T 職場」の実現を通じて、活気に満ちあふれた企業文化を醸成し、お客様と社会へ価値を提供できる自律した知的プロフェッショナル人材の集団作りを目指しています。

人財育成のしくみ

コベルコシステムでは、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。そして、将来にわたって、プロとしての自覚を持ち自律的にスキルアップする仕組みとして、複線型プロフェッショナル職制度と連動し成長度合いを確かめる「スペシャリスト試験」、ハイレベル人材の育成・登用および各職種の目指すべき人材像の可視化を狙いとした「KCP 認定制度 (Kobelco systems Certified Profession)」を設けています。また、職種横断の認定制度として、お客様に更なる価値を提供していくことを目的に、お客様の業務や業界動向について知識習得・経験レベルを3段階で認定する「アプリケーションマスター認定制度」を設けています。その他、知識技能を習得するための教育体系を整備し、階層別研修に加え、専門性を極める各種研修を集合教育、通信教育、e-ラーニングなど多彩な形態で実施しています。加えて、良質な経験を通じて成長を促すため、育成観点のローテーション、教育出向等も実施しています。そして、これらの機会を有効活用しながら日々の業務活動を通じて自己成長度合いを認識していくため目標管理制度を導入しています。コベルコシステムの目標管理制度は「キャリア・コミュニケーション・プログラム」と呼ばれ、3年後、5年後、10年後の中長期視点のキャリア形成計画と単年度目標を連動させた運用を行い、社員の成長を積極的にサポートしています。

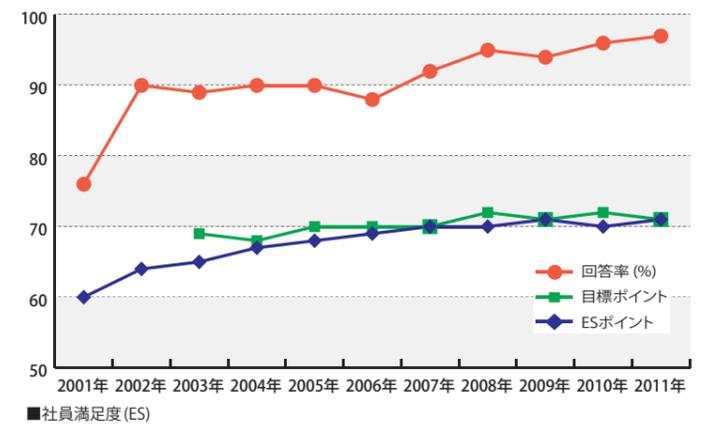


| 社員級 | ライン | セールス | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | IT スペシャリスト | 経営スタッフ | 事務 |
|--------|----------|--------------------|---------|-------------|------------|--------|------|
| G1 主管 | 本部長/部長 | コベルコシステム認定プロフェッション | | | | スタッフ | 担当部員 |
| G2 副主管 | 部長/G長・室長 | スペシャリスト | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | IT スペシャリスト | | |
| G3 専任 | G長・室長 | セールスマスター | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | IT スペシャリスト | | |
| G4 主任 | | セールスマスター | コンサルタント | プロジェクトマネジャー | IT スペシャリスト | | |
| G5 副主任 | | スペシャリスト試験 | | | | | |
| G6 先任 | | セールス | | プロジェクトマネジャー | IT スペシャリスト | | |
| G7 初級 | | セールス | | プロジェクトマネジャー | IT スペシャリスト | | |

社員満足度 (ES) 調査

「社員の満足なしにお客様満足 (CS) の向上はあり得ない」という基本認識の下、社員満足度 (ES) 調査を2001年から10年以上継続して実施しており、他社からも注目されています。ES 調査結果で認識した課題と改善策は経営計画、人事労務施策に反映され、イントラネットや各種ミーティングの場で社員にアナウンスしています。これまでの調査結果から、当社社員の満足の源は「貢献実感、納得感、参画的な職場」であることが分かってきました。

2011年から「一律から個別へ」のスローガンを掲げ、制度導入などの一律的な対応に加えてキャリアコンサルティングなど社員との直接対話回数を増やし、個別事情に目を向けた細やかなサポートを行っています。



社員の成長と働き甲斐が コベルコシステムの企業発展の原動力である ～ 3T (楽しい、短時間、達成感) 職場の実現 ～

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人たちから、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

3T 推進ワーキンググループ

3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現を目指す全社横断的な推進役として、社長をオーナーとする3T推進ワーキンググループを2010年11月に発足させました。人事部門を事務局として、メンバーは各部門から選出された3T推進責任者で構成されており、3T職場を実現していくために解決しなければならないさまざまな課題を現場の実態を踏まえて発掘し、解決に向けた提言を行っています。加えて、ワーキンググループの活動内容はイントラネットを通じて社員に情報公開しており、本活動に関して広く社員の意見を吸い上げ、それらを踏まえた全社一丸となった活動を展開しています。また、提言された内容は、社長の強力なリーダーシップの下、制度の拡充や業務プロセス改善、職場風土変革を目的とした諸施策に反映され、3T推進責任者がそれぞれの現場で施策浸透の旗振り役を務め、仕事と生活が調和し両立でき、イキイキ・ワクワク仕事ができる「3T職場」の実現に向けて着実な成果をあげています。



「ノー残業デー」の全社展開について

3T職場の実現の具体的な推進施策として、2011年4月から「ノー残業デー」の全社展開を開始しました。過去にも「ノー残業デー」は人事部門が中心になって推進してきましたが、かけ声だけで形骸化し、長続きしませんでした。今回は3T推進ワーキンググループで「なぜ形骸化するのか」、「定着させるにはどうするか」など、過去の失敗の問題分析を徹底的に行い、その対策として、①認知度の向上、②運用面での工夫、③定着に向けたしかけを実施することで、着実に効果を上げています。

① 認知度の向上: 全社キックオフミーティングで社長メッセージとして発信し、幹部会、ライン長連絡会、部門ミーティングなど、あらゆる機会を繰り返し案内しています。

② 運用面での工夫: 各部署の状況により、自主的に曜日や退社時間を設定することとし、運用に柔軟性を持たせ、無理なく持続できるようにしました。また、各々「すいすいカエルデー」や「残業したらアカンデー」等のユニークなネーミングを設定し、馴染みやすいものにしました。

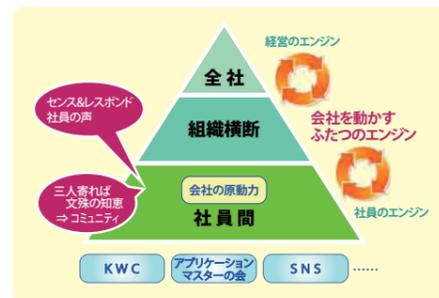
③ 定着に向けたしかけ: 業務効率化を目的として、全社員を対象に「タイムマネジメント研修」を実施しました。次に【会議を効率よく進めるための7カ条】を作成して全会議室に掲示し、会議の効率アップを図りました。また、充実し、イキイキしている社員にスポットをあて、定時退社後の時間の有効活用事例として社内報で紹介しています。さらに、形骸化しないよう3T推進ワーキンググループのメンバーを中心に、継続的にPDCAサイクルを回しています。これまでを振り返ると、各部門でネーミングや曜日を設定することで主体的な動きを生み、そして何より、継続へとつながってきていると実感しています。そして、この活動から総労働時間短縮へとさらにつながるよう進めていきます。



全社コミュニティ活動

変化が激しく、スピードが求められる現在、会社側からの施策展開だけでなく、社員の側からの施策提言が必要であるとの認識の下、社員が自発的に創設するコミュニティ活動を会社として支援し、個人や会社の成長につなげていくための枠組みを、全社コミュニティ活動として2010年に創設しました。全社コミュニティ活動は、普段仕事上の接点の少ない社員が部門の枠を超えて接する場として、また、新たな視点からの発想や意見を交換する場として、個人や会社の成長に重要な活動になりつつあります。

全社コミュニティは、2010年発足の「仮想化コミュニティ」、ES向上を目的とする「いいスマイル」に続き、2011年には、アプリケーションの保守にかかわる部署間の情報交流を目的とする「アプリケーション保守情報交流コミュニティ」、若手女性営業のキャリアアップに向けた意見交換を目的とする「女管会」、子育てと仕事の両立を目指す女性社員による「ママ会」が発足しました。今後も新たなコミュニティ活動が生まれ、全社コミュニティ活動がますます活性化していくものと期待しています。



KWC 活動

2003年に女性社員の活躍を支援する全社横断の自主活動として「Kobelco systems Women's Committee (略称: KWC)」の活動がスタートしました。その後、女性社員がより一層能力を発揮しながら働き続けるためには、仕事と生活を自立的に両立できる「ワークライフバランス」がなくてはならない要素のひとつであることから、2010年に「Kobelco systems Work-life-balance Community」と改称し、女性社員のみならず男性社員も含めて「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに据え、ワークライフバランスに着目した新たな活動を展開しています。

2011年3月に行われたKWCフォーラムは「自ら取り組むワークライフバランス」をテーマに開催し、社内でワークライフバランスを良好に保って仕事と個人生活を双方に充実させている社員の事例紹介を行いました。参加者から好評を得て、現在は「ワークライフ・バランス充実に向けてのコツ集」としてイントラネットで公開しています。



“ありがとう” 数珠つなぎ

ネゴシエーションからコラボレーションへ! お客様に最大の価値をお届けするために、組織やプロジェクトを越えてつながり、助け合い、支え合いたい。そして、お客様からいただいた「ありがとう」の言葉。私たちの大きな喜びです。この喜びを社内でも共有したい。助けてくれた仲間、支えてくれた仲間に、この「ありがとう」を返したい。この「ありがとう」の積み重ねが、私たちの力です。この思いを込めて、社内報「トライジャー・やる」に『“ありがとう”数珠つなぎ』と題して、2010年2月号(四半期毎発行)から連載を開始しました。毎月4人が「ありがとう」を伝え、2011年11月号まで合計32の「ありがとう」を紹介しました。もっと、もっと社員のつながりを広げ、元気と熱気に溢れた“いい匂い”をお客様に届けていきたいと考えています。これからも「ありがとう」の気持ちを大切に、お客様のご期待に応えていきます。



全社イベント「ハッピーデー」～家族も一緒に～

2008年から毎年、秋に実施される家族参加型の全社イベント。2011年は「コベルコシステムハッピーデー 2011」と銘打って、東京地区は11月12日に、神戸地区は11月27日に、両地区合わせて1,100名近くの社員とその家族が参加して開催されました。

東京地区では、水上バスによる「隅田川遊覧クルーズ」を実施。浅草から隅田川を下り、東京湾の品川埠頭付近を巡ってお台場のパレットタウンまで、約90分の遊覧船でのクルージングを満喫し、その後は台湾家庭料理店でビュッフェ形式の食事を楽しみ、親睦を深めました。

神戸地区では、恒例となった神戸フルーツ・フラワーパークでの「ファミリー運動会」と「バーベキュー」を中心とする企画でしたが、2011年は、これに加えて「大ビンゴ大会」を実施。豪華景品に会場には歓声があふれていました。

年々、参加者が増えてきているファミリーデーですが、「社員同士の一体感の醸成」「私たちに支えてくれる家族への感謝」をテーマに、4年目の2011年も、東京会場、神戸会場ともに、大盛況、大好評のうちに終えることができました。コベルコシステムの社内行事として、社員とご家族への認知度や期待度も高いイベントに育ってきています。



社員の成長と働き甲斐が コベルコシステムの企業発展の原動力である ～ 3T (楽しい、短時間、達成感) 職場の実現 ～

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人々から、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

コベルコシステムの内定者たち(2012年入社)

コベルコシステムでは「応募してくる学生さんはお客様」をモットーにしています。厳しい選考の中にも満足感・納得感を得ていただくため、面接等の場面でも応募者の良いところを引き出したり、会社を正しく理解していただくための積極的な情報提供に努めています。入社選考という状況の中、応募者がクリアすべき共通の基準はありますが、お互い全力を出し合った結果、様々な能力や個性を持った仲間が入社してきます。コベルコシステムでは、この能力や個性を活かした強いチーム作りに取り組んでおり、「このチームにぜひ加わりたい」という未来の仲間が集まるのを待ち望んでいます。

◆ 工学研究科 電子情報系専攻

橋本 真司さん (システムエンジニア職内定)

(Q) 志望動機または応募のきっかけは？

就職活動の軸としていた企業理念・業務内容・人や社風がマッチし、また、母体がしっかりしている点や様々なフィールドで活躍できる点、そしてお客様のみなさん社員の満足度も高い点にも魅力を感じたので志望しました。

(Q) 入社を決め手は？

選考過程で会社のいい点も悪い点も伝えていたこと、人を大切にしている会社であること、選考時の印象がよかったことなど、選考が進むにつれて自然と志望度がより一層高まっていたので、コベルコシステムに決めました。



◆ 工学部 情報画像学科

村瀬 優美さん (システムエンジニア職内定)

(Q) 志望動機または応募のきっかけは？

学内説明会で人事の方の話を聞いて、「人材」という言葉に興味を持って説明会に参加したのが選考に応募させていただいたきっかけです。志望動機は、品質重視という企業DNAが脈々と受け継がれているというもの作りへの姿勢に感銘をうけ、私もこの会社でお客様の夢を実現できるようなスペシャリストになりたいと思ったからです。

(Q) 入社を決め手は？

ここまで「人材育成」に力をそそいでいる企業と言うのはあまり見当たらなかったし、自分が技術者として成長できる基盤がこの会社にはあると選考を進めていく中で強く思っていたためです。



◆ 経営学部 事業創造学科

兼子 紗佑里さん (システムエンジニア職内定)

(Q) 選考時の印象は？

他のIT系の会社とは少し違うような気がする、というのが第一印象でした。もちろん、SEの適性も見られていたと思うのですが、それ以上に、私自身の話をたくさん聞いてくださって、楽しい選考だったと思います。

(Q) 入社を決め手は？

この職場で頑張っていきたい、と思えたからです。会社の仕事内容も経営状態も判断材料にしていたのですが、何より、この会社で4月から働く自分をイメージしやすかったことが入社を決め手になりました。



◆ 理学研究科 生物学専攻

橋本 貴太さん (システムエンジニア職内定)

(Q) 志望動機または応募のきっかけは？

他社のインターンシップへの参加がきっかけで、SEやITコンサルタントが自分の性格に合っていると思ったことがきっかけです。また、神戸に本社があり地元の企業である点も大きな動機の一つです。

(Q) 入社後の目標・抱負は？

提案ができる人間になることです。ITの分野ではゼロからのスタートなので、素早く色んなものを吸収し、問題に対して自分の意見を持って発言できるようにすることが第一の目標です。



◆ 外国語学部 地域文化学科

厚田 卓さん (経営スタッフ職内定)

(Q) 選考時の印象は？

人を大切にしてくれる会社だと感じました。面接も和やかな雰囲気の中で、こちらの伝えたいことを誠実に聞いていただけました。メールや電話での応対も丁寧で、気持ちよく選考を受けることができました。

(Q) 入社後の目標・抱負は？

社内のことを幅広く知っているジェネラリストとして活躍したいと思っています。そのため、周り積極的にコミュニケーションをとること、学ぶ姿勢を大切にすることが当面の目標です。また様々な分野の資格取得にも挑戦したいです。



■ 内定者全員集合!! (全社イベント「コベルコシステム ハッピーデー 2011」会場にて)

◆ 商学部 商学科

佐藤 友祐さん (営業職内定)

(Q) 選考時の印象は？

面接の際に非常に緊張していたのですが、面接官の方々に笑顔で暖かく接していただき、話しやすい雰囲気にしていただいたことが強く印象に残っています。今でも私が内定をいただけたのは面接官の方々のおかげだと思っています。

(Q) 入社を決め手は？

選考の段階から人事の方の人柄に魅かれてコベルコシステムに非常に興味を持っていましたが、懇親会の際に社員の方々から話を聞き、この方々と一緒に働きたいと思い、この会社に入社することを決めました。



社員の声

KCP認定制度のAdvancedに認定された ソリューション統括本部インダストリーソリューション本部 植村 隆幸さん



私は、KCP認定制度が立ち上がった3年前に、初めてKCP-PMとして認定されました。この認定にあたっては、これまでのプロジェクトマネージャー(以下、PM)の経験と当社への業績貢献の基準をクリアするとともに、PMスキルの客観性を評価するために情報処理技術者PMなどの資格取得が認定条件になっています。情報処理技術者PMは、日経BP社「ITプロ」のサイトの技術系「いる資格」で、2002年の調査開始当時から連続して1位の資格です。IT業界にとってPMは慢性的に不足感があり、最も必要とされている職種といえます。

PMは、当社とお客様との接点となる存在です。PMのパフォーマンスが、当社のサービスレベルを決めます。プロジェクトにとって必要なスキルのメンバーを揃えることは必要条件になりますが、それだけではお客様にとって満足いく価値は提供できません。PMは、お客様にとって最適なサービスを、メンバーの最高のスキルと能力を発揮させて適用しなければなりません。私は、これがPMとして最も期待される役割だと思っています。そして、それを実現できたときにPMとしての仕事の楽しさと達成感を得ることができます。我々は、お客様から信頼されるPMをKCP認定制度を通して多く育成し、社会から必要とされる会社であり続けたいと思っています。そして、それをリードしていくことがKCP-PMとしての私の使命だと思っています。

※ KCP認定制度: p.20参照

2011年入社の システム統括本部 ICT本部 山中 俊毅さん

私は文系学部を卒業し、コベルコシステムに入社しました。学生時代はITとは無縁の生活を送っており、IT系のことは知識ゼロの状態でした。しかし、入社前教育や、新人合同研修、本部での研修など、教育・研修制度が充実しており、IT系の知識は入社以前と比べると見違えるほどつきました。また、アドバイザー制度という先輩社員とのつながりもあり、業務を進めていく上で困ったことや、悩み事があると相談できます。アドバイザーだけではなく、周りの先輩社員の方々も、私を気にかけてくださいます。業務を進めていく上で分からないことがあり質問をすると、分かるまで丁寧に指導していただいております。新しい知識、経験を得ることができ、成長が実感できる充実した毎日を過ごしています。

新人の私にとって、業務で行うことは全て初めての経験ばかりです。つまずくことも多々あります。それをフォローして下さる上司や先輩の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。グループ全体で育てていただいているような、暖かな職場であると感じます。今後もそのような職場であり続けられるよう、私にできることは、先輩方のようなグループに貢献できる人材に成長することです。これからも日々経験を積み、一人前のSEとなるべく精進し続けます。



APマスター認定制度のGoldに認定された ソリューション統括本部インダストリーソリューション本部 坂本 麻子さん



入社以来、一貫して同じお客様の同じシステム(個人生命保険の契約管理システム)の開発・保守を担当しており、システム再構築等の大規模開発も何度か経験しました。これらを通じて得た業務知識の積み重ねがAPマスターのGold認定につながったと考えています。

同じお客様の所で経験を積み重ねることは業務知識を深める上で有利ですが、逆に言えば、それが偏った知識であっても自分ではなかなか気付く機会がありません。APマスター制度では公的資格が認定要件のひとつですので、資格取得に向けた学習が業務知識の再整理や新たな気付きを得ることにつながりました。また、自分の知識レベルを客観的な基準で知る良い機会にもなりました。

開発の実践で得た知識にAPマスター認定を通じて得た幅広い知識を加え、これからも日々努力したいと考えています。その結果がお客様の期待に応えられること、もしくはそれ以上のものを生み出すことにつながれば、大変嬉しく思います。

※ APマスター(アプリケーションマスター)認定制度: p.20参照

2度の育児休業を取得された システム統括本部 SO本部 齋藤 絵理さん

私は入社6年目で産休に入ってから、出産、育休、復帰、二人目出産、育休、復帰と仕事以外でも充実した日々を送っています。社内結婚の夫も私以上に多忙なため、家のことは夫と分担するだけでなく、夫のお母さんにも協力してもらい何とかやりくりしている状態です。現在は短時間勤務で仕事をしているので、業務量を調整していただき、比較的規模の小さな案件のプロジェクトリーダーとして仕事をさせてもらっています。育休期間中は、復帰した時に仕事についていけるのか非常に心配でした。事実、仕事を休んでいる間はこれまで積み重ねてきた業務知識をきれいさっぱり忘れてしまっていましたし、電話に出ることさえ遠慮がちになっていました。復帰後、職場の同僚やお客様と一緒に働くことで次第に記憶がよみがえり、仕事のやり方もこれまで以上に効率的に進められるようになりました。この育休期間は自分を見つめなおすいい機会だったのかもかもしれません。

これから結婚、出産、育児といったライフイベントを控えた方には、すぐに辞めずに仕事を続けてみては、とアドバイスしたいと思います。決して周囲に迷惑をかけるはいけないと思うと仕事は続けられません。私の職場では周りの人が手厚くフォローしてくれず、私もいつかは必ず恩返しをしようという気持ちで働いています。これからは女性だけでなく男性も育児休業制度を大いに活用して、みんながイキイキと働ければ素敵だなと思います。そのためにも、会社にはこの制度を継続して推進していただきたいと思っています。



当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して 企業市民として社会への貢献を確実に実行する

2011年3月11日に発生した平成23年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)とそれに伴う津波、ならびに同地震・津波に起因する発電所の事故等の災害により、東北地方の太平洋岸を中心に東日本は壊滅的な被害を受け、多くの尊い命が失われました。ここに深い哀悼の意を表します。また、今回の震災で被災されました皆様に対しまして、心からお見舞い申し上げます。

1995年の阪神・淡路大震災における被災企業でもあるコベルコシステムでは、被災地へ以下の支援を実施しました。

- ・救援物資・保存食・飲料水等の送付 (2011年3月)
- ・会社からの義援金・社内募金による義援金・希望社員の給与引き去りによる義援金 合計約350万円を送付
- ・東日本大震災の支援のためのボランティア休暇制度の新設 (2011年5月～2012年3月)

第16回アニメーション神戸 Webアニメコンテスト協賛

コベルコシステムでは、地域貢献活動の一環として、2007年から「アニメーション神戸」に協賛し、「Webアニメコンテスト」に「コベルコシステム賞」を設けています。2011年のテーマは「ともに」でした。このテーマは、コベルコシステムの『「お客様とともに」「社員とともに」「社会とともに」等、ステークホルダーの皆様と「ともに」、ITを通じて社会に貢献していくことが会社の責務である』との考えに沿って設定したものです。

- 第16回アニメーション神戸 コベルコシステム賞
テーマ：**ともに**
タイトル：**「ともに」** ペンネーム：**Haru さん**



- 優秀賞
タイトル： ペンネーム：
- ・「One for All All for One」 **WEBEEF さん**
- ・「Jim&Sean! 〜ジムシヨ〜」 **PSYGOP さん**
- ・「君とともに」 **ソクスケ さん**
- ・「絵」 **k原 さん**

「コベルコシステムにおける社会貢献のあり方」社内検討

コベルコシステムでは、社会貢献活動として、森の世話人、クリーンハイク、植樹会等を行っており、その活動も定着しつつありますが、一方では参加者が特定メンバーに限定されている等の課題もありました。また、これらの活動がトップダウン的に始まったものが多く、社内の有識者による事前議論の結果を踏まえ、CSRの社会貢献の分野で掲げる次のテーマについて、社内SNSや社内掲示板、本部の会議等を通じて、社員からの意見や提案等を募りました。

- ・コベルコシステムの得意とする知識(IT)や、保有する経営資源(人)を活用し、コベルコシステムならではの社会貢献活動を行う
- ・社会貢献活動を社員が体感することで、社会や自然環境を大切に思う気持ちを広く浸透させる

その結果、現状の活動が後者のテーマに関連するものが多いためか、社員からは前者のテーマに関する提案等が多く出されました。今年は、出された意見や提案等を踏まえ、何をどのような形で実施していくのかを中心に検討する予定です。

① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します

② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

インターンシップの受け入れ

人材育成と社会貢献の観点からインターンシップの受け入れを実施しています。参加者からは「社会人になるための心構えができた」、「社会にITがどのように役立っているかを理解することができた」等の感想をいただいています。

- インターンシップ
2011年には、大学生2名をインターンシップとして受け入れ、本社部門の業務体験を実施しました。
- 留学生インターンシップ
大学コンソーシアムひょうご神戸の留学生8名を受け入れ、知的財産、ITにおける品質保証、プロジェクト管理等の教育や、製鉄所見学、先進技術演習等を実施しました。また、兵庫県立大学の留学生約20名の研修旅行を受け入れ、社員との意見交換や事業所見学等を実施しました。



■会社の説明

■事業所見学

神戸市内のマラソンイベントへの協賛・ボランティア参加

- 神戸マラソン
2011年11月20日、初の「神戸マラソン」が実施されました。コベルコシステムからは、ボランティアリーダーやペースメーカーをはじめ、約20名の役員・社員がボランティアとして参加しました。
- 東日本大震災復興支援チャリティーリレーマラソン2011
公益社団法人 日本フィランソロピー協会が企画・主催した「東日本大震災復興支援チャリティーリレーマラソン2011」が2011年12月24日に神戸市内で開催されました。このチャリティーリレーマラソン2011は、東日本大震災の被災地と阪神・淡路大震災の被災地の中高生が協力し、神戸市内の協力校を回りながら募金を集め、募金を持ち帰った東北の中高生が自らその活用方法を考えて被災地を支援するという企画です。コベルコシステムは、東北から来神された生徒や先生、運営スタッフの皆さんに着ていただくためのTシャツを作成して寄贈し、また当日のマラソン運営を支援しました。



■東日本復興支援チャリティーリレーマラソン2011
東北からの生徒代表にTシャツを贈呈

その他の地域貢献・社会貢献

- アビリンピック
2003年から全国障害者技能競技大会(アビリンピック)を支援しており、AutoCAD種目におけるソフトウェアの貸し出し、導入支援や大会当日のサポート等を実施しています。
- スポーツ振興協賛
NPO法人 スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。
- 大規模地震災害援助金
1995年1月の阪神・淡路大震災の被災企業として、国内外の大規模地震の被災地に対して義援金を送っています。2011年3月11日の東日本大震災の被災地に対しても、義援金を送付しました。
- 地域イベントへの協賛
寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。
 - ・神戸花物語
 - ・神戸まつり
 - ・神戸ルミナリエ
- ペットボトルキャップ収集
世界の子供にワクチンを送る「エコキャップ運動」に参加しています。

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して 企業市民として社会への貢献を確実に実行する

コベルコシステムでは、2007年に環境保護をCSRの重点テーマと位置づけ、以下の環境保護方針を定めて、コベルコシステム創業の地神戸市のシンボルである六甲山を中心に活動しています。

私たちコベルコシステムも、地球温暖化に代表されるさまざまな環境問題に無関心ではいけません。企業の社会的責任を果たすため、経済的な付加価値の向上やコンプライアンス遵守のみならず、持続的な発展に向けた社会や環境に対する責任ある行動を社員一人ひとりが実践していきたいと考えています。

イメージキャラクター「Kocoroちゃん」とともに、クリーンハイクや「森の世話人」活動などの自然環境保護活動を推進していきます。

また、日常の業務を遂行する中で自らの職場における環境負荷低減に取り組むと共に、IT企業としてさまざまな製品・サービス・ソリューションをお客様にお届けするにあたって環境に配慮し、よりスマートな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

今後、環境目標の設定や活動計画の立案とその推進を通じて、地球にやさしい企業になるよう全員で取り組んでいきます。



「Kocoroちゃん」

コベルコシステムの自然環境保護活動に使用するイメージキャラクターとして、第12回アニメーション神戸の協賛事業として募集し、応募のあった93作品の中から選定したイメージキャラクターです。作者の製作意図は、「六甲山の自然環境を守る帽子をかぶったキャラクターが清掃活動をしているところ」です。

また、愛称は社員から募集しました。KocoroのKoはコベルコシステムのKo、roは六甲山のroです。Koとroを結ぶcoは、協力を意味するcollaboration、共存を意味するcoexistenceからとりました。Kocoroには、コベルコシステムと六甲山が「永遠にともに」という願いが込められています。また、優しい「心」を持ち続けたいとの思いも含まれています。

「森の世話人」活動、植樹等を実施する場合や、六甲山の自然を紹介するパンフレットやカレンダーなどに活用し、親しんでいただけるキャラクターとして育てています。



NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のご協力により、これまでに神戸・六甲山の自然を紹介した以下のパンフレットやカレンダーを作成・配布しています。

- 「六甲山花百選」パンフレット
- 「六甲山木の実・草の実」パンフレット
- 「神戸・六甲山系の蝶と食草」パンフレット
- 「神戸・六甲山系の蝶と食草II」パンフレット
- 「六甲山のツツジ」パンフレット
- 「神戸・六甲山系のラン科植物」パンフレット
- 花クリアファイル
- 神戸・六甲山の花々カレンダー（毎年制作）

また、神戸・六甲山の花々カレンダーの裏表紙では、六甲山の植物を紹介したり、コベルコシステムの植樹会や「森の世話人」活動を紹介しています。

① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します

② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

「森の世話人」活動

コベルコシステムは、六甲山の森を守り育てる活動である「森の世話人」活動に賛同し、2010年から六甲山の前山のひとつである金鳥山（神戸市東灘区）の南側の森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

「森の世話人」活動は、社員・OB・関係者およびその家族により、林内の整理（ネザサ刈り、外来種の伐採や常緑樹の間採）、倒木・腐朽木の除去、調査・観察会等の活動を年に3～4回実施し、地元六甲山の災害に強い森づくりに貢献しています。また、活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年に3回、2011年は4回実施しましたが、ネザサの勢いは強く、きれいに刈り取った場所でも、次回の活動時には、また元の状態に戻っていることもしばしばです。しかし、地道な活動の結果、林内は少しずつきれいになってきており、次の世代となる樹木も芽生えてきています。

■ 六甲山系グリーンベルト整備事業

平成7年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）により、六甲山地では山の斜面崩壊や地割れが多数発生しました。また、地震でゆるんだ地盤は、今後の大雨などによる土砂災害の危険性があると考えられており、六甲山地を一連の樹林帯（グリーンベルト）として守り育て、土砂災害に対する安全性を高めるとともに、緑豊かな都市環境、景観などをつくり出そうという事業で、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進しています。

■ 「森の世話人」活動

「六甲山系グリーンベルト整備事業」の一環として、企業や市民団体が森林の維持・整備や植樹等をボランティアで実施する活動です。

■ Kocoroちゃんの森

「森の世話人」活動では、活動地の森林に対し命名することができます。そこで、コベルコシステムの自然環境保護活動のイメージキャラクター「Kocoroちゃん」を森の名前に命名しました。



社員の声

技術・品質統括部 祖浦 正和さん

私は神戸で生まれ神戸で育ちました。中学時代は友人と六甲山でキャンプをしたり、教育の一環で学校から耐寒登山などと称して真冬に六甲山系を縦走させられたり、六甲山には思い出と親しみがあります。そのためか、ひとりでよく六甲山に登ります。また、この10年来、年に一度、帰省した中学時代の友人と六甲山へハイキングに行きます。自然の中の散策は気持ちがよく最高です。小さな子供を連れた家族づれや、「山ガール」といわれるファッションブルな若い女性が数人でハイキングをする姿もよく見かけます。近郊の山ならではの風景です。

しかし、このような人たちが楽しめるすばらしい自然環境も保護があつてのこと。この活動に参加して、六甲山の自然を保護するために多くの方が努力していることを知りました。自然に親しむ者が自然環境を保護するのは当然のことと思ひ、この活動に参加しています。自分の勤める会社が地域貢献として六甲山の自然環境保護活動を実践しているのを誇らしく感じますし、このような機会を得られたことを嬉しく思っています。



植樹会 ～有馬温泉癒しの森と六甲山自然保護センターに植樹～

2007年11月、有馬温泉癒しの森と兵庫県立六甲山自然保護センターで「設立20周年記念植樹」を実施、その後は毎年、六甲山に自生するヤマアジサイを許可を得て初夏に採集し、社員有志が挿し木で4ヵ月間丹精こめて育てたものを晩秋に有馬温泉癒しの森に植え戻す植樹会を実施しています。また、2011年からは、それまで年に1回しか実施できていなかった植樹地の維持・整備を、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のご協力を得て、雑草等の状況に応じて実施しています。

2011年は、7月上旬に採集したヤマアジサイを11月下旬の植樹会にて有馬温泉癒しの森に植え戻しました。また、その後、六甲山自然保護センターに移動して植樹地の整備状況を見学し、同センターのセミナールームでNPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」の講演を聴き、六甲山の自然や「森の世話人」活動の意義について学びました。



事業活動の中での環境保護活動 グリーンITソリューション

事業活動の中での環境保護活動

日常業務の中で、オフィス環境負荷の低減に取り組んでいます。

| 分野 | 活動内容 |
|-------------------------------|---|
| コベルコ エコライフ ノート 利用促進 | <ul style="list-style-type: none"> コベルコ エコライフ ノートは、(株)神戸製鋼所がグループ会社社員の環境意識向上のために提供しているシステムで、社員個々が月々の電気やガス、水道等の使用量を入力することで、各家庭における省エネ達成度やCO₂の排出量を把握することができる環境家計簿システムです。 コベルコシステムでは、本システムの利用を社員に働きかけ、環境意識の向上を図っています。 |
| サマーエコスタイル運動 | <ul style="list-style-type: none"> コベルコシステムの事業所で勤務する社員に対して、夏季のノーネクタイやクールビズを奨励し、冷房用電力使用量の削減を図っています。 |
| 移動エネルギーの削減配慮 | <ul style="list-style-type: none"> TV会議システムやe-ラーニングを利用し、出張や集合研修を抑制し、それに伴う移動を減らすことで、CO₂排出量の削減に貢献しています。 コベルコシステムでは基本的に自家用車での通勤を認めていませんが、例外的に自家用車での通勤を認めている一部事業所においても、マイカー通勤自粛日を設け、CO₂排出量の削減に努めています。 |
| 3R(Reduce, Reuse, Recycle) 促進 | <ul style="list-style-type: none"> 夏季の冷房温度の28℃設定、冬季の暖房温度の20℃設定を徹底させることで、冷暖房用電力使用量の削減に努めています。 オフィスの照明の一部を、法令上の照度を下回らない程度に間引くことで、照明用電力使用量の削減を図っています。 昼休みの照明の一部消灯(可能な場合には全消灯)を励行しています。 会議室未使用時の電源オフや、長時間業務用PCを使用しない場合の電源オフの励行、一定時間PCを使用していない場合の自動電源オフ設定等を励行し、電力使用量の低減に努めています。 文書印刷に関して、両面印刷や縮小印刷等を励行し、紙の使用量の削減に努めています。 社内便の封筒やクリアファイルなど、事務用品の再利用を励行しています。 携帯型機器等への充電型乾電池の使用を徹底することで、資源の削減に努めています。 紙やプラスチックを廃棄する際の分別を徹底し、資源のリサイクルに努めています。 |

グリーンITソリューション

ITそのものの環境負荷低減を図る「ITの省エネ」や、ITを利用して省資源を図る「ITによる省エネ」等のソリューションを提供します。

| 分野 | 主なソリューション |
|-----------------------|---|
| 「ITの省エネ」に関するソリューション | <ul style="list-style-type: none"> 省電力型IT機器の販売および移行支援のご提供 省電力型サーバー等のIT機器の販売や、現行システムを省電力型サーバーに移行させることによる、省エネや省スペースを実現します。 サーバー統合支援のご提供 複数のサーバーに分散したシステムを少数のサーバーに統合し、省エネ、省スペース、省力化を実現します。 仮想化技術導入支援のご提供 サーバー稼働率が平均20%程度であることに着目し、空いているサーバーのリソースを他のアプリケーションなどで利用可能とすることで、サーバーの増設を抑制します。 ITモダナイゼーションのご提供 レガシーな基幹システムを上記のソリューション等を活用してオープン系のシステムに置き換えることにより、省エネ、省スペース、省力化を実現します。 |
| 「ITによる省エネ」に関するソリューション | <ul style="list-style-type: none"> 省紙対策ソリューションのご提供 帳票データを電子的に参照できるシステムや電子承認システムの導入支援 TV会議システムソリューションのご提供 出張や移動時間の削減を図るTV会議システムの導入支援 その他のお客様の環境対策をご支援するソリューションのご提供の例 <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物管理システムの構築支援 ・物流管理システムの構築支援 ・置場管理システムの構築支援 |

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。
本レポートはすべて、2009年4月に発足したCSR推進委員会のメンバーが、それぞれの担当分野について、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて作成しています。

今回は、ISO26000のガイドを考慮しながら、読みやすく構成することを心がけました。
今後もさらにCSR活動を強化していきながら、本レポートの内容も充実させていきます。

なお、添付のアンケートまたはWebのCSRアンケート入力画面から忌憚のないご意見をいただけましたら幸いです。

Webアンケート入力画面：<https://www.kobelcosys.co.jp/csr/questionnaire/form.php>

本レポートの内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。
コベルコシステム株式会社 経営・人財企画部 総務グループ CSR担当
〒651-0072 神戸市中央区脇浜町2丁目11-14(神鋼ビル ネオエスト6F)
TEL：078-261-7531 FAX：078-261-7520

取得済の認証・認定



●登録範囲：
ハウジングサービス、セキュリティ運用管理サービス及びソリューションサービスにかかわる情報資産のセキュリティを保護するための情報セキュリティマネジメントシステム

●ISO9001適用部署：
営業本部・ソリューション統括本部・システム統括本部 ICT本部
●登録活動範囲：
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)